ミュンヘンへの道

オリンピックの大会まで、あと二ケ月余になってしまった。考えてみれば、36年という長い長い才月が、今回は、今回はという形で流れ去り、ようやくめぐってきたという感じである。

先号で既報のように、ヨーロッパ遠征は受け入れ側の都合でとりやめになってしまった。三年とか五年とかの単位で、日まできっちりと決めた強化計画のたてられているヨーロッパ諸国特に東欧圏の諸国の強化計画の強固さに今更ながら、立派だなあと思わざるを得ない。ミュンヘンがおわれば、すぐに次の世界選手権をめざしてチーム作りいや既にもう次の段階への準備は着々と直行している。

財政面その他の要因からくる彼我の差といってしまえば、それだけかもしれない。しかし、そういって、ノンビリ構えてもいられない。

現在のナショナルチーム、確かに史上最強かもしれない。しかし、その基礎にあるものが、何によって支えられているものかをもう一度考え直しておく必要もあろう。世界選手権への参加、ルーマニアの強化合宿、タシマイダン杯、このような諸々の条件を闘いぬいてきて、技術・戦術的にも、精神的にもヨーロッパ諸国にヒケをとらないものができてきたのである。現在のナショナルのほとんどのメンバーはこの時点からのメンバーとやであり、次の線のメンバーとやや差がついているのは否むべくもない。

この数年間に亘る強化策が実って、ミュンヘンへの道は開かれたのである。しかし、次の世界選手権、モントリオールのオリンピックを考えた場合、はなはだ心もとない。

この欄で何回も触れているように、ミュンヘンオリンピックは自己完結的な目標ではない。日本ハンドボール界の流れの一つの点である筈である。日本ハンドボール界の今後の発展のために、数年先を見通した頂点強化・底辺拡充の二大施策を企画・実施しておかないことには、〈ミュンヘンへの道〉は開かれても、一度限りのあだ花におわってしまうことにもなろう。永続的な先を見通しての策を練るのは現在をおいてほかにはあるまい。

ミュンヘンでの好成績と永続的施策を期待しよう。

（藤本）

時　評

今年のNHK杯大会（全日本選抜）は久々に会場を大阪へ移して6月23日から開かれる。前人気は上々という。

ところでこの大会の性格については、毎年のように議論されながら、いぜん一つの線を引けないままになっている。

もともと、この大会ほど〃変身〃を繰り返してきた大会はない。

母体は昭和29年冬に始められた全日本総合室内選手権。38年7人制一本化で夏の全日本総合とどちらにウエイトが置かれているかが最初の論点であった。

苦しまぎれに「全日本総合はアウトドアのチャンピオン」などと説明し、担当記者から「それでは雨天の時、室内で決勝を行うのはナンセンス」と皮肉られたりもしてきた。40年から全日本選抜選手権と改称、男女とも出場チームは推せん選抜制を採ったのだがどうにも中途半ぱ。

44年と45年は日本協会の選ぶビックフォアによる精鋭大会、さらに昨年は加盟団体の選抜軍と全日本による〃オールスターズ・ゲーム〃で行われた。

この間、40年から45年まではNHK杯というサブタイトルがつき（注・NHKは29年から後援）、昨年になってNHK杯がメインタイトルになり、同時に「選手権」という文字が消えた。

「日本協会も暗中模索。テレビ放送があるので捨て切れないだけだ」というカゲの声もあるが早いところしっかりした方向を見つけださないと、そのテレビからも見はなされてしまうのではあるまいか。

また、加盟団体に気がねするあまり、せっかくの精鋭厳選主義を無にしてしまっているという批判もある。

例えば——今年の場合男子を大崎電気、ワクナガ薬品、大同製鋼、中央大にしたらさぞかし見応えがあったろう（東京・植田修司氏の投書）。

傾聴すべき意見だが、全日本学連、全日本教職員連のことを考えたら日本協会はとても踏み切れまい。しかし、二、三年前日本協会は「この大会はファン獲得のための見せる大会だ」ともいっている。とすれば妙な義理・人情を吹きとばして文字どおりのビッグフォアなりトップスリーなりを単独で噛み合せてもよいハズである。

大会の人気は毎年着実に伸びているだけに、内容についてもう一工夫して欲しい。

（X）

「ハンドボール」

6月号（第98号）目次

【表紙写真】関東学生リーグ一部最終戦・中央二連覇を決める　山田真市氏撮影

選手12名（GK2 FP10）を選考 1名は役員兼任

～オリンピック代表、6月11日に決定～

コーチ（1名）は常務理事会が推薦

日本協会は5月13日の月例常務理事会でオリンピック参加選手の選考について協議、4月26日のJOC総会で新たに「補助コーチ」1名が追加されたため、役員1、選手11名のうち役員1名を選手へ振り替え12名（うち1名は役員兼務）の選手を送ることに決めた。

参加選手の選考は荒川理事長を委員長とする選考委員会（9名）を編成して第2次候補選手18名のなかから行い、6月11日の全国評議員会、同理事会（いずれも東京）で正式決定する。

また、補助コーチについては6月10日の常務理事会で1名を推せん、選手同よう11日の全国会議にかけて正式決定の運びとなる。

4月の常務理事会で長い時間をかけた「役員1、選手11」か「選手12」かは、4月26日のJOC総会で「補助コーチ」の枠が1名まわされたことにより、「選手12」にあっさり意見がまとまった。

村田オリンピック対策部長も、「大会日程（最低5試合）から考えて1名でも多くの選手を送るべきだ」としており、まず妥当な線が打ち出されたと見てよいだろう

選手の内訳については、すでにGK2、FP10と確定されていたが（＝本誌既報）絶対数を抑えられているだけにこれも順当な割りふりといってよい。外国チームはGK3、FP13と推される。

選考委員長に荒川氏

選手の選考については選考委員会を編成して行いたい、という田村会長、荒川理事長の提案を受け1月からオリンピック候補チームの強化指導をつづけていたコーチングスタッフ（5名）を主体に常務理事会代表として3氏が加わり荒川理事長を委員長に9名のメンバーが承認された。

荒川委員長の意向は早ければ月末に最終合宿地の名古屋で1回目の会議を開き、6月5～9日に最終的な選考を行う、と伝えられている。

選考委によって練られた「12名のリスト」は原案としてまず6月10日の常務理事会へかけられ、さらに11日の全国理事会を経て同評議員会で正式決定する。

「補助コーチ」は実質上監督

補助コーチについては、実質的には監督であることが確認された

本来ならば、3月末に配当を受けた役員1が監督をつとめ、補助コーチは文字通り監督補佐であるわけなのだが、役員1をプレイヤーに替えなければ戦力の補強ができないため、表面的には監督を補助コーチとして〝登録〟する苦肉の策が採られたものである。

補助コーチの人選は、現在、オリンピック候補（全日本）のコーチングスタッフとして強化・指導の責任を負っている村田弘、勝繁夫、渡辺慶寿、竹野奉昭、北川勇喜の五氏のなかから1名を6月10日の月例常務理事会で推せん、全国会議にはかることになった。

また、上位入賞を目指す日本チームにとってコーチが1名では、充分に活動できない、という心配から日本協会経費によってコーチ1名を派遣する提案が行われているが、結論は6月10日に持ちこされた。

オリンピック第2次候補選手

GK（4名）

- 下里　敏彦（大崎電気）
- 本田　　洋（大阪イーグルス）
- 大村　　久（山梨教員ク）
- 馬渕　豊明（全立教）

FP（14名）

- 近森　克彦（大崎電気）
- 飯田　誠行（大崎電気）
- 東　　一敏（大崎電気）
- 野田　　清（大同製鋼）
- 藤中　憲二（大同製鋼）
- 中井　武三（大同製鋼）
- 木野　　実（ワクナガ薬品）
- 早川　清孝（ワクナガ薬品）
- 有永　修二（東京海上火災）
- 斎藤　光男（群馬教員ク）
- 氷海　正行（千葉教員ク）
- 新実　俊夫（本田技研）
- 大江　隆夫（三菱レイヨン）
- 佐々木健一（中央大）

オリンピック選手選考委員会

▽委員長

- 荒川　清美（日本協会理事長）

▽委員

- 村田　　弘
- 勝　　繁夫
- 渡辺　慶寿
- 竹野　奉昭
- 北川　勇喜

（以上 全日本コーチ団）

- 安藤　純光
- 栗脇　　嶷
- 杉山　　茂

（以上 常務理事会代表）

▽オブザーバー

- 田村　正衛（会長・副会長代表）

「地域連盟承認」へ

～IHF日韓共同案を採択～

AHF(仮称)結成早まる?

国際ハンドボール連盟(IHF)は、このほど日本、韓国両国に対し「地域連盟結成のためIHFの規約の改訂(追加)を求める提案」を、今夏8月24日から西ドイツのニュウルンベルグで開く第13回IHF総会(定例)に於いて採択することを明きらかにし、提案手続きをとるよう要請して来た。

日本協会では5月13日の月例常務理事会で検討、ただちに独語による提案を行ったが、この提案が通過しても即アジアハンドボール連盟(AHF・仮称)の結成にはつながらない点を再確認した。

しかし〝共同提案〟国である韓国は、日本とは正反対に提案が通ればAHFの発足を即刻アピールするものとみられ、AHF問題は再び、三たび新しい局面を迎えようとしている。

なお、IHF総会に日本からは担当の渡辺和美副会長、河内鋭雄海外駐在代表(在ミラノ)が出席の予定で「大陸別理事の選出」を提案する。

AHF問題、日本の立場微妙

＜解説＞IHFが「地域連盟の結成を認めるように」という日韓共同提案の総会採択を決めたのは、「承認」を意味する、とみてよい。

これは、AHF結成の促進につながるものであり、時期尚早を主張しつづけていた日本の立ち場は微妙になる。

IHFが地域連盟を認めていなかったことは、日本にとってむしろ好都合、切り札でさえあった。

それが昨秋のアジア各国代表者会議(11月15日、東京目黒雅叙園観光ホテル)で韓国の強腰に引きずられて規約改訂の共同提案国となり、自から苦しい道を選んだわけだ。

常務理事会が確認したように、提案の通過がイコールAHFの結成とはならないだろうが、これまでのような態度で引き伸ばしを行うことは不可能になる。

日本協会としては、改めてAHF結成が尚早であるという説得力を伴った姿勢を固めるべきであり審判講習会、コーチ会議といった事業を主宰するぐらいの用意をしておかなくてはなるまい。

いずれにせよAHF問題に関する意識の欠如を日本協会は猛省すべきだ。また、共同提案国となった〝責任〟が問いなおされるような事態もおこらないとは言い切れない。日本協会最高首脳陣の態度表明がこの難問題解決の唯一の光ではあるまいか――。 (X)

ソウルで日韓高校交流

全日本高校(男子)優勝校を派遣

日本体協による今年の第7回日韓高校スポーツ交歓競技会は8月20日から22日までソウル市で行われることに内定した。実施種目はハンドボール男子、陸上競技など9競技。ハンドボール(通算9度目の交流)は例年どおり全日本高校選手権の優勝校が代表となり8月18日出発、23日帰国の予定。

女子の交流見送り 日本協会と高体連ハンドボール部ではかねてから高校女子の日韓交流を実現するよう検討を進めていたが、今年も日韓高校交歓競技会では実施種目に入らず、この競技会をはなれて交流することは全国高体連(本部)が好ましくないとしているため今年度も見送られる公算が強くなった。高校女子の交流は韓国側の要望がきっかけになっており、今後の両国の話合いが注目されよう。

理事長に中沢氏新任

全日本学連新役員

全日本学連は5月12日東京で新年度役員の改選を行い、理事長に中沢重夫氏(芝工大出)を選出したほか、各専門部長も新任された。▽会長 西敏郎(慶大出)▽理事長 中沢重夫(関東・芝工大出)▽技術部長 藤原侑(関東・日体大出)▽審判部長 宇津野年一(東海・日体出)▽普及部長 藤松博(東海・名工大出)▽日本協会派遣理事 久保義雄(関西・同志社大出)中沢重夫▽委員長 中野利一(関東・日体大)▽副委員長 中西輝(関西・同志社)▽経理担当委員 藤森妙子(関東・東京女体大)

全日本学生割り当て数 全日本学連は今秋11月14日から大阪で行う第15回(女子第8回)全日本学生選手権の各地学連別割り当て数(計32校)を決め発表した。女子は今年からフリー。▽男子割り当て数 前年度優秀校2(日体大、中央大)、関東9、関西7、東海4、九州3、東北北海道3、中四国2、北信越2

各県協会役員など代る 埼玉、岐阜、長崎協会などはこのほど新役員を発表、また4県の事務局が変更された。◇埼玉協会▽理事長 遠藤健次▽審判委員長 上久保重次▽技術委員長 高橋邦勇▽事務局 浦和市仲町3の5の8武道館 (財)埼玉県体育協会内 電〇四八八(22)五二一五 ◇岐阜協会▽会長 長谷川忠(岐阜会館社長)▽理事長 岡田重博▽事務局 岐阜県養老郡養老町向町、県立大垣農業高校内 電〇五八四三(2)三一六一 ◇長崎協会▽会長 田中丸善一郎▽理事長 浦力▽副理事長 今村豊嗣▽審判部長 原田国男▽事務局 佐世保市梅田町10の11 県立佐世保商業高校内 ◇愛媛協会▽事務局 松山市木屋町4の151電〇八九九(43)三八一六▽事務局長 松原久士(新田高)

評議員会、理事会を招集

日本協会はミュンヘンオリンピック代表選手決定のための全国評議員会を6月11日午後1時から、全国理事会を同日午前10時からいずれも東京岸記念体育館(体協)会議室で開くことを決め、5月15日付で招集した。

NHK杯

オリンピック代表に注目
上位リーグ目指し激戦
全国実業団

【第19回NHK杯・展望】第19回NHK杯全日本選抜大会は6月23、24、25日の3日間、久々に大阪市中央体育館で行われる。参加チームは各加盟団体推せんの男女4チーム。男子はオリンピック選手全員の登場が予定されている。大会のみどころを探ってみよう。

前回は全日本と各加盟団体選抜軍によるオールスターズ・ゲームだったが、今年は各加盟団体に代表を割りふり、その選衡を委任したため男子は単独、混成がそれぞれ2チームずつ、女子は全チーム単独という顔触れになった。

男子は晴れのオリンピック代表12名が決定直後でもあり、彼らの華やかな個人技がファンの話題をさらうだろう。また女子は実業団のトップスリーによる今シーズン最初の激突がみもので、その一角に日体大（東京）がからむ。見応えがありそうだ。なお今年は得点王の表彰は行われない。

実業団選抜一歩リード

◆男子　オリンピック候補7名を攻守の要にした実業団選抜が他チームをリードしている。

木野（ワクナガ薬品）をリーダーに野田、中井、藤中の大同トリオ、新実（本田技研）、大江（三菱レイヨン）らの攻撃力は力と技を織りこんで多彩なプレーをみせるだろう。早川（ワクナガ薬品）をリードマンにした守備面でも進境いちじるしいGK柳川（大同製鋼）などでまとまっている。混成特有のコンビネーションにわずかな不安はあるがじっくり戦えば優勝を逃すことはあるまい。

対抗は大崎×教職員選抜（第1日に対戦）の勝者とみる。どちらも主軸はナショナルプレイヤー、試合かけ引きも甲乙つけ難い。大崎に単独の有利さがあれば、教職員には〃打倒実業団〃の燃えるような斗志がある。本田（教職員選抜・大阪イーグルス）×下里両GKの興味深い顔合せのほか、大崎の近森、東、飯田それに新人荒井（法政大）。教職員の福井、樫塚、高橋、安達らの大阪イーグルス勢に加えて斉藤（群馬）、氷海（千葉）串野（和歌山）ら豊かなキャリアを誇る巧者たちのプレーはみもの。小さなミスが勝負そのものの明暗を色分けするような接戦になりそうである。

中央大は波にのれば3者総ナメも期待できるが、ひとつリズムを狂わすととんでもない拙戦をする悪癖がなおついていない。

佐々木、花輪、白石らを軸としたスピードと組織攻撃は随一ともみられているだけに、学生代表の面目にかけても暴れてもらいたいものだ。

（杉山）

〃連勝〃伸ばすか大洋デパート

女子はこれまでになく、出場権をかけた大会を行ない、これを勝ちぬいた田村紡、日本ビクターが出場し、また大洋デパートが出場権を推せんで得ており、久々に実業団三強がベストメンバーで顔を合わせる。

学生界からは、学生チャンピオン日体大が出場する。

この大会の焦点は大洋デパートが昭和43年8月の第20回全日本大会以来昨秋の和歌山国体まで続けている全国大会優勝記録（連続13）をこの大会で更に延ばすかにかかってこよう。

大洋デパートは昨夏の全日本実業団以来、ほぼ一年ぶりにベストメンバーを組む。全国大会連続優勝時のメンバーから、枝尾、渡辺の両名が抜けたが、GK・小原、FP・垂水、米、島田が健在、これに和歌山国体時に良く留守を守った。蔵田、村中、釼が成長しているので、大きく崩れることさえなければ、まず優勝することは間違いあるまい。特に昨冬の世界選手権に参加した小原、垂水、米、

第19回 NHK 杯日程

▽第1日（6月23日・金）
15.30（女）日体大―大洋デパート
16.40（女）日本ビクター―田村紡
17.50（男①）大崎電気―教職員選抜
19.10（男②）中央大―実業団選抜

▽第2日（6月24日・土）
12.00（女）日本ビクター―日体大
13.05（女）大洋デパート―田村紡
14.15（男）①の勝者―②の勝者
（14.10～15.30NHKテレビ）
15.40（男）①の敗者―②の敗者

▽第3日（6月25日・日）
12.00（女）田村紡―日体大
13.10（女）大洋デパート―日本ビクター
14.20（男）｝6月24日に決定
15.40（男）｝

会場・大阪市中央体育館

島田が一段と自信をつけた。なかでも島田の成長ぶりには目をみはるものがある。

昨冬の全日本総合で大洋欠場の間げきをぬって、初めて全日本チャンピオンになった日本ビクターがどのような戦いぶりをみせ、その面目をどうかけるか、その真価を問われる大会でもある。

ビクターのメンバーはベテランになった蓮見姉妹、八重樫を軸にして、これに大塚、富山、谷沢らの若手がようやくチームに慣れてきて、かなりの力をつけている。それに加えてGK・渡辺も好調のようだし、大洋の連勝記録をはばむ第一候補にあげられよう。

田村紡は三毛、広森の長身の両エースが健在で、かなりの自信をつけ、ミドル、ロングをどんどんとばすようになっている。この二人をチャンスメーカーの辻がいかに生かすかにポイントがあろう。

学生界では圧倒的に強さを見せている日体大は、木村、嶋田、小貫、岩本、赤塚、岩本らと揃えた攻撃力がどこまで実業団相手に通用するか。

順当にいけば、大洋デパートの勝利と見たいが、日本ビクター、日体大のファイトを期待したい。（藤本）

【全国実業団大会・展望】

今年度の全国実業団トーナメント（男子のみ）は6月18日から21日間岐阜市・岐阜県体育館で行われる。例年どおり上位2チームには9月名古屋で開かれる予定の第14回全日本実業団男子選手権への出場権が与えられる。（編集部）

〔大会組合せ〕

▽1回戦（2試合）イ、トヨタ車体（愛知）×京都信用金庫（京都）、ロ、日本鋼管京浜（神奈川）×三友工業所（愛知）

▽2回戦（6試合）①セントラル自動車（神奈川）×川崎重工（兵庫）、②境港市役所（鳥取）×自衛隊春日井（愛知）、③日本発条（神奈川）×三井石油化学（山口）、④タヨシ産業（愛知）×三洋電気（岐阜）、⑤大山商会（大阪）×静岡日野自動車（静岡）×⑥日新製鋼呉（広島）×丸善石油（千葉）、⑦日本耐酸壜（岐阜）×丸善石油松山（愛媛）、⑧安田生命（東京）×イの勝者、⑨三菱油化（三重）×ロの勝者、⑩金沢市役所（石川）×富士レジン（兵庫）、⑪自衛隊勝田（茨城）×北陸電力福井（福井）、⑫トヨタ自動車（愛知）×丸善石油下津（和歌山）、⑬日本合成ゴム（三重）×二和家具（岐阜）⑭自衛隊第三術科学校（千葉）×三菱レイヨン大竹（広島）、⑮新日鉄名古屋（愛知）×日本鋼管福山（広島）、⑯神戸製鋼所（兵庫）×日進商会（神奈川）

◇3回戦（8試合）①の勝者×②の勝者、③×④、⑤×⑥、⑦×⑧、⑨×⑩、⑪×⑫、⑬×⑭、⑮×⑯

◇準々決勝　A①②×③④、B⑤⑥×⑦⑧、C⑨⑩×⑪⑫、D⑬⑭×⑮⑯

◇準決勝　A×B、C×D

◇3位決定戦　決勝

三菱レ、大山商会ら有力

初顔の登場が目立ち、予定した32チームをオーバー。実業団球界の成長を物語っている。実力的にも大学、高校界の有力選手を各チームとも引き入れたようで好内容を期待してよい。

優勝を争うのは三菱レイヨン大竹、セントラル自動車、日本発条大山商会、トヨタ車体あたりとみられ、このうちセントラルと日本発条、大山とトヨタは順当なら準々決勝で星をつぶしあう。

神奈川同士の対戦は、県内ではこのところ日本発条が分（ぶ）のよい成績を残しているようだが本舞台ではどうなるか。奥川、土田GK川原らに入江（関大）、橋本（大阪経大）らを加えた大山商会と元全日本の山田を軸に山口、安井宮松（関大）らの攻撃力を誇るトヨタ車体の顔合せも興味深い。

波乱がなければ決勝は大山商会×三菱レ大竹か。

くじ運に恵れた三菱レは第1回（昭35）の準優勝チーム、球歴15年を誇る実業団の草分け的存在である。オリンピック候補大江（芝浦工大）のほか岩国工の新鋭4人を加え、ベテラン・沖重が相変らず元気なのも特筆される。

この5チームを追うのは川崎重工、三井石油化学、自衛隊勝田、丸善石油下津、新日鉄名古屋、日本鋼管福山あたり。

新日鉄×日本鋼管福山は2回戦屈指の好カード。ダークホースは日新製鋼呉。大山商会も油断できない。このほか境港市役所、三友工業所、富士レジン、神戸製鋼所静岡日野自動車のまとまりがかえる。日進商会、安田生命は有力選手を揃えるが練習量に不安を残す

なお自衛隊1位の海上鹿屋（鹿児島）は欠場。

県選考（予選）大会始まる
初の全国中学生大会

今夏8月18、19の両日愛知県青少年総合センターで開かれる第1回全国中学生大会の準備はその後順調に進められているが、早くも三重県では全国大会へつながる県大会男女代表の選考を終わり東海地区会への推せんを発表した。

なお、日本協会では先に決定した大会要領（=本誌前号既報）のうち主催者に加えていた愛知県教育委員会を同委からの申し出により後援に変更、また参加者保護として「大会に出場できるのは医師の健康診断を受け承認された者に限る」の一条を追加することになった。

三重、早くも推せん校決定

▼全国中学生大会三重県選考大会（5月・四日市工）

▽女子1回戦

富州原　18―2　東員
明和　26―23　笹川
四日市南　15―6　北勢
亀山中部　不戦勝　緑ケ丘

▽同準々決勝

菰野　12―11　富州原
明和　19―18　亀山
平田野　11―5　四日市南
四日市中部　5―3　亀山中部

▽同準決勝

明和　18―9　菰野
平田野　10―1　四日市中部

▽同決勝

明和　11（5―1、6―2）3　平田野

この結果、明和中と男子・平田野中（推せん）が6月25日岐阜市で行われる東海地区大会に出場する

慶熙大が初の来日

関東学生選抜など4戦

第6回日韓学生交流は、今シーズン韓国学生界ナンバーワンの慶熙大学（役員3、選手11）が来日して6月10日開幕、4都市で4試合が行われる。女子は漢星女子短大が来日する予定だったが取りやめになった。

日韓学生日程

▽6月9日12時55分来日（福岡空港）
▽6月10日16時．第1戦（福岡市民体育館）慶熙大対九州学生選抜
▽6月12日18時．第2戦（亜京極体育館）慶熙大対京都産業大
▽6月15日18時．第3戦（愛知県体育館）慶熙大対東海学生選抜
▽6月17日16時．第4戦（東京体育館）慶熙大対関東学生選抜
▽6月18日　離日（羽田空港）

国際定期戦といわれる日韓学生交流も6回目を迎えた。

昨年のアジア予選を契機として両国トッププレイヤーの動向が大いに関心を集めるようになったが、その土壌はこのシリーズにあり、2年後、3年後の両国ナショナルプレイヤーを探る意味でも興味深い。気の早い人など「モントリオール対策のスタートだ」とさえ云っている。

来日する慶熙大（ソウル）は韓国学生界きっての名門。学生交流の記念すべき第1戦は36年10月21日ソウル孝昌球技場における慶熙大対日体大（11人制）であり、日本協会関係者の一部は以前から同大学の来日を心待ちにしていたほどである。日本チームとの対戦成績は

日体22―7慶熙（昭36・ソウル）
日体15―13慶熙（昭44・同）
全慶熙12―11日体（同）
全日本学生17―16慶熙（昭46・同）

このほか昨年6月訪韓したワクナガ薬品（大阪）が全慶熙大と顔を合はせ14―10で敗れた記録がある。

対戦する日本側は新進・京都産業大（第2戦）以外、各地とも春季リーグから選んだオールスター。

7人制に切り替えられてからの通算成績は日本側の22戦14勝6敗2分だが、昨年などは有力選手を揃えた全日本学生が、韓国側の単独チームと接戦している。韓国学生界のレベルは長足の進歩を遂げており、楽観は許されまい。特に激しいばかりの勝利への執着心は、日本側も一目おかねばならないのではなかろうか。

なお、余談になるが慶熙大と並ぶ強豪・成均館大（45年来日）は、アジア予選で高校生ながら代表となった車聖福、金成憲らを加えていちだんと戦力アップしたが「3月の学生リーグで不祥事をおこし1年間出場停止を受けている」（田中全日本実連理事長）そうだ。

女子は突然来征を中止

なお、今回は初の男女滞同が予定され5月20日付の外電は漢星女子短大(釜山)の来日を報じたが、31日夜、韓国協会から全日本学連に突然「女子は遠征できない」との国際電話が入った。大会10日前の中止とあって全日本学連、各地学連はかなりの混乱がみられた。

関東、東海選抜軍が内定

関東学連と東海学連は韓国・慶熙大と対戦する選抜軍の陣容を次のように内定した。

【関東学生】◇監督　田中秀夫（中大監督）◇GK山田(中央)、佐藤(法政)、◇FP佐々木、花輪（ともに全日本、中央)、白石(中央)、長谷川、田之上(以上法政)、菊地、加藤、脇若（以上早稲田）、横島（東京教大）、佐藤(明治)

【東海学生】◇GK福井(中京)、沢田(南山)◇FP小川、梶村、夏目、成田、布垣(以上中京)、飼沼、福田、佐藤(以上名城)、田中忠、堀田(以上愛知教大)。

「日韓審判会議」の実現へ

日本協会、6月に話合いか

日本協会は5月の日韓女子社会人交流（本誌8頁～11頁参照）で「韓国側審判員の判定に公平を欠くものがあった」とする田中全日本実連理事長の報告について5月13日の月例常務理事会で検討、これまでの交流でも互いの審判員を批難するケースがしばしばあったことから、早急に両国審判関係者の話合いの機会をもつべきだ、との意見にまとまり、6月10日に来日する慶熙大一行に韓国協会役員が含まれている場合「審判会議」実現への具体的な打合せを行うことに決めた。

また、当分の間、日韓交流（ただし体協主催の高校は除く）は、両国1名づつの審判員で運行したらどうかという意見も出され、日体協会審判部に検討を委せた。

◇

日韓交流における相手国審判員へのクレームは今回が初めてではなく、〝親善〟の看板に汚点をつける寸前というケースも二、三度生じている。

多くの場合、両国の判定解釈には大差がなく「自国に有利に吹いた」「吹かない」というきわめて幼稚なやりとりであった。

それだけに両国協会関係者ともその場がおさまれば、という考えで時日を過し、協会レベルで話合うとする機運はあまりなかった。

しかし、選手の立ち場を考えれば、いつまでも放置してはおけず日本協会もようやく〝調整〟に立ちあがったものである。

これまでいくどか「両国審判会議」「合同講習会」が企画されながら実現しないままであった点も反省されるべきだろう。（X）

スパルタク・キエフ3連勝

女子ヨーロッパカップ

第11回女子ヨーロッパカップの決勝スパルタク・キエフ(ソ連)対SC・ライプチヒ(東ドイツ)は5月5日ブラスチラバで行われ、キエフが4点差で快勝、3年連続優勝した。ソビエト代表は5回連続の栄冠。

スパルタクキエフ　12（7―5 / 5―3）8　SC・ライプチヒ

◇訂正　本誌前号2頁、オリンピック予選リーグ組み合せのうち、世界選手権順位を誤っておりましたので次のように訂正します。西ドイツ(5位)、ソビエト(9位)。

全日本実業団選抜、白花醸造に2敗

第2回日韓女子社会人交流は5月1日から11日まで全日本実業団選抜軍（田中滋章団長ら18人）が遠征してソウル、釜山、全州の3都市で4試合を行った。新鋭選手で固めた全日本実業団選抜軍が優位とみられていたが、狭いコートに泣かされ、強豪・白花醸造に2敗、五分の星で帰国した。日本の女子チームが訪韓したのは史上初。

日韓女子社会人交流リポート①

緒戦、白花に敗る

第1戦・白花醸造との1回戦は5月3日午後4時からソウル・奨忠体育館（34m×18m）で行われた。

白花醸造 15（5－6 10－4）10 全日本実業団選抜

後記　佐藤あや子（大崎電気工業）

○……白花醸造は昨年九州で顔を合わせた時とほとんど同じ顔ぶれ前半おたがいにペースをつかめず、ミスが目立った。

白花は狭いコートを巧く利用して二段速攻でポイントをあげた。我々はルーズボールもとれず、またレフェリーの指示にとまどいを感じながらもじわじわ追いあげた

白花のディフェンスはトップが浮き気味にみえたが堅く、特にルーズボールを必ず自分達のものにしている。我々はディスエンスをゆさぶることができず、確率のない単発のシュートを放ってはGKに阻まれ、逆に速攻を浴びた。いずれもせまいコートに悩まされた結果ともいえる。

○……白花で目立ったのはサウスポーの李純玩。169cm、67kgと大きく、マークし切ったとみえても、その上からシュートされている。ましてや左利きということで守りを鈍くしてしまった。

ともかく前半は1点差をキープしたのだが、後半開始直後すぐ同点とされ、それ以後は残念ながら相手のペース。我々はボール廻しも悪く、ミスからの速攻、GKからの速攻と白花の変化ある攻撃に失点を重ねてしまった。

試合後敗因として反省したのは

・レフェリーに反応できるようなプレーをすること。

・確率のあるシュートを放つこと

・強引に「中」へ突っこんでシュートすること。

・クロスを充分使ったシュートをすること。

などであった。

白花醸造とは今後も数多く交流すると思うが、二度と同じミスを繰り返したくない。

後半、鳳永ク振り切る

第2戦・鳳永クラブ（鳳永女商OG）との試合は5日午後4時からソウル・奨忠体育館で行われた

全日本実業団選抜 17（10－9 7－3）12 鳳永クラブ

後記　村中佐千子（大洋デパート）

○……相手チームは平均年令18才弱という若さ。白花の主力俞、鄭安が加っていた。

結果からすればクラブチームに対して失点12は多すぎたと思う。

立ちあがり私たちは巧くすべり出して8分ほどで3－0と開いた

しかし体育館が円形でコートいっぱいの展開を得意とする私たちはとまどい勝ち、特に速攻のパスや走りに於いての感覚がくるいミスが続いて相手に逆襲のきっかけを与えてしまった。

鳳永クは私たちのミスボールから、狭いコートを巧く利用した速攻で得点をあげ、私たちは試合のペースを握ることができなかった

○……レフェリーのホールディングに対する判定基準が日本と比べてきつく、日本ではフリー・スローになるようなケースでも「警告」をとられ、このためついボールを持っている者に対しても躊躇（ちゅうちょ）した当りになり、そのまま振り切られて得点された場面が2回ほどあった。

レフェリーの癖というものを早くつかみ、それに応じたプレーをすることも必要で、国際試合では特にそれを痛感した。

後半は、どうやら私たちも速攻やパスワークがスムースに流れ出し押し切った。「遠征」の難しなどを実際に体験し勉強してきたことを、今後少しでもプラスになるよう頑張りたいと思う。

韓星女大には圧勝

第3戦・全韓星女子大との試合は7日午後7時30分から釜山・九徳体育館（34m×19m）で行われた

全日本実業団選抜 26（11－1 15－3）4 全韓星女子大

後記　広森和代（田村紡績）

○……ソウルから5時間余りバスに揺られレセプションのあと試合場に向かい、10分ほどのウォーミングアップで試合開始。

韓星女子大は平均身長165cmと高いが身体の線は細く弱々しい感じ釜山ハンドボール協会の会長さんが均斉のとれた日本の選手を見て驚いていたのが頭に残っています

さて、試合ははじめから日本のペース、26－4で圧勝したのですがなんとも物足りない感じでした

韓星大の攻撃は、ディフェンスを動かすこともなく、ドリブルで縦に突込んで平行パスをするのと右45度からの切り込みが多くなんの変化もなく、私達にとってはカットも容易だし、パスコースも簡単に読みとれました。

○……韓星大としては日本のディフェンスを崩すだけのスピードもテクニックもなく、そのうえパスミス、キャッチミスも重なったのですから自滅したともいえましょう。また守備面に於いてもGKとバックスの連けいが未だしで、私たちはやすやすとシュートを放つことができました。

しかし韓星大各選手のドリブルの巧さは、さすがにバスケットボールの強い国だけあって際立っており、また思い切りバックスをかわして射つロングシュートは学ぶべきであると思います。

○……試合後、釜山協会の会長さんは「今日は三つびっくりすることがあった。第一に日本選手の身体の大きいこと、第二にトレーニ

初の韓国女子遠征より帰りて

田中滋章
（全日本実業団女子選抜軍団長）

僅か11日間の合宿で、それも出発前日まで所属チームにとって大切なNHK大会の予選があり気の毒な条件下の遠征であったが、役員・選手諸君全員よくやってくれた。

当初から我々の目標は対白花戦にあったのでこれに全力を注いだ。が結果は2敗。しかし2試合とも敗けたという残念さより、審判問題で後味の悪い無念さだけが残って11日に帰国した。

ここで問題になるのは例え審判問題があったとしても、我々役員にとっては、次の機会は色々解決しようという逃げがあるが、一生に一度の海外遠征をした選手たちにとっては永久に残る記録であり一生忘れられない屈辱ということである。

全州での試合では全員必勝を期していただけに食事・言葉・コートの狭さなどすべてを克服して斗った。李純玩のロングシュートも、俞慶淑のクイックシュートも完壁に抑え最早完全な日本ペースなのに。あれはもうゲームではない。広森・長岡・辻らが人前も構わず大粒の涙を流してくやしがったあの顔は私も一生忘れる事ができない。

悔しがる選手をようやく説得して無理矢理レセプションに出席。でもレセプションではみんな不満も言わずに表面的には笑顔すら見せてくれた時、私は涙を止めることができず、外へ飛び出して空を見上げた。彼女たちの心情は察するに余りあり、この時ほど私たち協会関係者の無策を情なく思うことはなかった。

選手たちは日韓親善のために最後まで本当によくやってくれた。この紙面を借りて御礼をいうと共に、君たちの涙を無にしないためにも今後このような事のないよう一生懸命努力することを誓います。

またこの選抜チームのためにご尽力くださいましたブラザー工業関係者をはじめ、実業団各チームの皆様、及び韓国ハンドボール協会と会社全体で歓迎下さった白花醸造株式会社の皆様に心から御礼申上げます。

テダニ　カムサハンニダ。

ングスラックスを脱いだ時の筋肉のたくましさ、第三にプレーの大胆さです」この挨拶に、私たちはなんとも面はゆい気がしたものです。

○……最後にレフェリーについて一言述べますと、日本の審判技術に比べて、韓国は随分遅れていると感じました。どの試合でも観衆の応援とヤジに判定が左右され自分の国に有利に笛を吹いてしまうことが多かったようです。親善試合だけに、もう少し正確に吹いてもらえたら、と強く感じました。

白花へ雪辱ならず

第4戦（最終戦）は、白花醸造との2回戦として9日午後5時から全州高校体育館（37m×20m）で行われた。

白花醸造 11（5－2 / 6－5）7 全日本実業団選抜

後記

蓮見二三恵（日本ビクター）

○……二千名の観衆を集めた最終戦、相手は緒戦で敗れている白花醸造だけに是が非でも雪辱ししようとファイトをむき出しにして試合に臨んだが、斗志だけが先走り身体が思うように動かず凡プレーを繰り返してしまった。このミスが相手の速攻をまねき、3点の先行を許してしまう。

しかし10分過ぎから日本も本来の姿にようやくもどってきたが、シュートが決まらず、試合前監督からオープン攻撃を行ない相手をゆさぶりミドルシュートで勝負するよう指示されていたが、相手ディフェンスのトップの浮き気味の陣形にサイドから45度へのパスがスムースに通らず、走りが止ってしまう。

そこで相手トップの後方へボールを通し攻撃をするよう指示されたが、パスのつなぎが悪く走りこみがなくなりシューターが射程に入りこめず、ボールをローリングさせるだけで前半を終えてしまった。

○……後半は思いきり切りこみリターンパスを受けてシュートを行なうよう策戦をうけた。

ようやくボールが回り出し日本らしい攻撃ができるようになりミドルシュートも決まりだした。

守っては相手のパスをカットし速攻に結びつけて得点差を縮めた逆転への自信を強めさせたのだがそのやさき15分過ぎに、まったく納得できない判定から二人つづけて「退場」を課せられ、反撃の「メ」をつぶされてしまった。

第1戦同よう試合に勝って勝負に負けたように感ぜられた(主将)

◇

観戦記

金村美代子（ブラザー工業）

○……釜山からバスで約5時間、ホテルのまわりは釜山とはまるきりちがい、にぎやかな感じや繁華街は一つもなく、静かな平屋建てが多かった。最終戦の前日、体育館で下見をかねての練習。これまでのコートより大きくなり、日本のプレーが発揮できそうな感じをうけた。しかし内部はうす暗く、観客席がコートのすぐ近くにあり観衆の応援を身近にして「あがる」のではないかと心配、さらによく見るとフロアの所々に穴があり、しかもよく滑る。

○……試合当日、案の定大満員に近い観衆が詰めかけ、連勝を狙う白花と雪辱を期す日本との好試合を期待していた。

前半日本はパスワークに苦しみ走りにもシャープさがなく3点の負担をおった。後半ようやく動きがスムースになりかけたところで二人の反則退動が出て反撃もストップ、ついに白花を破ることができずに終った。

○……白花との試合を体験してもっとも勉強になったことは、パスした人のその後の動きです。

パッサーからレシーバーへというのはボールゲームの鉄則ですが白花の各選手は実にこの基本に忠実で、パス後はポストマンになったり、シューターとしてまわりこみながらタイミングよく突っこんで来ます。守っていて全選手に警戒を怠れず、ディフェンスの「あがり下がり」がいかに大切かを改

めて痛感しました。攻撃技術ではこれといって特色がなく、むしろ単調でさえある白花でありながら6人全員がシュートチャンスを巧みにつかむのは、この一つのプレーを着実に繰り返しているからでしょう。

　そこに韓国人のもつ先天的なボールゲームセンスを見出すこともできるのです。

遠征を顧みて

蔵田　照美（大洋デパート）

　5月1日、1時間15分の飛行時間でソウル・金浦空港へついた。

　韓国協会の出迎えをうけ、ホテルYMCAに着いたのは午後7時すぎ。それぞれの部屋に別れてベッドに腰をおろした時、あぁここが韓国かな、と思った。わずか1時間15分の距離では日本を離れたという実感がまったくわいてこない。しかし一歩外へ出ると町の様子は全然違う。日本に比べてすべてが遅れているのだ。いちばん私達の目に強く感じたのは貧富の差がはげしいこと。民家も古い建物が多く、町の真中を馬車やリヤカーなどが通っていることなど一つ一つが印象的であったし、年少者の労働者の多いことも目立った。

　試合面では遠征前からコートの狭さは聞いていたが、第1戦のスタ場（ソウル・奨忠体育館）へ着いてみてなるほど狭い円形の体育館であると"確認"できた。34m×18mといわれたが、それもないのではなかろうか。

　馴れないコートでの試合は好調の時はさほど苦にならぬが、こちらが追う立ち場になった時などやはりカンが狂いハンデになる。第1戦でもはじめのうちはどうにか動いていたがディフェンスが一つきっかけを失ったあとは李純玩、兪慶淑らのステップで間をつかれ後半も個々の動きにまとまりをかいてしまった。

　なんともあっけない負け試合だったが、その一因にレフェリングがあったと思う。同じ競技規則の試合なのだろうか、失礼ながらこの審判はルールを知っているのだろうかと思いたくなる判定がつづいた。

　ただ、我々として反省しなければならないのは、笛の鳴る前に自分勝手に"判断"して中途半ぱにプレーしてしまい、そのスキを狙われて得点を許したことだ。

◇

藤浪　泰子（ブラザー工業）

　ソウルから釜山へ向かう高速バスの沿道は麦畑が多く、高い山はほとんど見られない。未開拓の地が残っている感じだ。長時間のバス旅、初夏の強い日照りにさすがに疲れ、到着と同時にモノもいわず座りこむ始末だった。

　釜山は最も日本に近い都市のためか全体の造りが日本的、そのムードが疲れた我々をどうにかやすらぎさせてくれた。

　釜山は韓国最大の鉄の町、貿易港である。ソウルではあまりみられなかったテレビのアンテナがどこの家にもついており、貧困の差が少ないようにみうけられた。

　歓迎会は日本料亭。テーブルに出された天ぷら、そしてなによりも白米のホカホカ御飯、やっと口に合う料理に出合った感じでソウルで食べられなかった分までとばかり、私など動きが鈍くなるほどつめこんだ。旅館も畳、ゆっくりくつろげた。

　試合の相手は韓国学生ナンバーワンの韓星女子大。満員の観衆の声援は熱狂的で、日本と国民性の差を感じた。7MTなどの時は一段の声援である。

　ところで、日韓交流がますます盛んであるとされながら審判差の大きいことはどうしたものか。

　例えば韓国審判団はボディチェックは一切許さないという。これではぼう然と相手の攻撃を見すごすほかにない。

　また、完全な広さのコートがないというのも日本にとっては不利だ。せめてサイドラインは38m（ルールの最短規定）なければなるまい。勝った2試合を含めて日本の力が相手を上廻りながら苦戦した原因はこの2点にある。

　親善試合は必しも大勝するのがよいとは限らない、といわれるが実力を出し切れずに終った感じが強い。私自身の反省としては守りの悪さを痛感、この経験を軸にもっと勉強したいと思う。

◇

辻　敏子（田村紡績）

　遠征から帰国後がいろいろと反省したなかからいくつかを書いてみたいと思います。

　2都市を転戦2勝2敗でしたが私たちの実力を充分発揮できなかったことはなによりも悔れます。

　ソウルに初めて着いた印象では町があまりにも汚い、バス、タクシーの動きも荒いまでに激しくそれに貧富の差が大きそうなことも何か心を打たれました。軍用基地があるためか人も車も夜間は24時を過ぎると一切外へ出られず、この話はいい知れぬ不安を感じさせられもしました。

　ところで試合についてですが第1戦（対白花醸造1回戦）ではコートが極端に短かいため速攻に出ることができず、また韓国のレフェリーも、親善試合なのですからもう少し和やかで公平に判定して欲しいものでした。

　白花は秀れた個人技を中心にし

ており、ボールを持つと必ずシュート態勢に入り、それが無理とみるやフェイント、ドリブルなど数々の自分の特技でなんとかシュートチャンスをつかもうと粘ります
ルースボールの処理が早いのも特色です。日本のようなクロスプレー、カットインプレーはほとんど見られません。

第2、第3戦は楽勝で白花との最終戦に斗志と自信をみなぎらせて全州へのりこんだのですが、またしても敗れ連敗してしまいました。残念でたまりません。

自分のチームにかえりさらに練習を重ねてもういちど白花醸造と対戦したい気持ちでいっぱいです

◇

佐藤 玲子
（ブラザー工業）

日韓初の実業団女子選抜として遠征が決まって数回の合宿予定が出発が早まったため充分に練習できず、しかも初の海外遠征とあって不安と期待を胸に大阪空港を飛びたった。

結果は2勝2敗。敗れた試合はいずれも白花醸造というのはとても残念に思います。

第1戦の体験からも最終戦では「勝てる」「今度こそは」と思って戦ったのですが――。

どの体育館も正規の広さ（40m×20m）がとれず、ワンパスからの速攻が出ない状態です。その点相手側は慣れているせいかそれなりの速攻でポイントをあげていました。各試合とも満員に近い観衆が集まり、日本では見ることのできない応援に驚かされ、落ち着いてプレーできないこともしばしばでした。国民性というものを強く感じました。観衆の大部分は私たちの試合の前に高校生がプレイしていたせいか学生でその声援は盛んなものがあり、韓国に於けるハンドボールの位置の高さ、大きさをのぞかせていました。

GKに関しては、どの選手も忠実に動いていたのが目立ち、韓星女大のGK申選手はディフェンスとのコンビをとればさらに上達すると思います。申選手は昨年白花醸造の一員として熊本の全日本実業団選手権に参加しています。

また、各チーム、各選手ともボールに対する執着心が強いのも特色で、これは大いに見習わなければならないでしょう。

ところで、全州の最終戦（対白花醸造2回戦）の審判は首をかしげる所がずい分見られ、残念でたまりません。例えばポストからの倒れこみシュートはほとんどといってよいほどラインクロスにとられ、また私たちがディフェンスしていて反則と判断し、一瞬気をゆるめたスキに素早くシュートされたことも少なくありませんでした

韓国のハンドボールは急速に普及されているようで小学生から社会人まで広域に亘ってハンドボールを楽しんでいます。日本でも今夏、全国中学生大会が開催されるそうですが、早く〃国民スポーツ〃として発展して欲しいものです。

何処にいっても歓迎攻めで、スケジュールのきついこともあり海外遠征の難かしさを改めて考えさせられました。

◇

訪韓全日本女子実業団選抜軍

▽団長		
田中　滋章	全日本実連理事長	
▽監督		
近藤　金博	東京重機監督	
▽コーチ		
池田　鉄哉	日本ビクター監督	
▽総務		
田口　侑義	東北ムネカタ監督	
▽選手		
GK長岡　範子	東京重機	
和田　祥子	大崎電気	
佐藤　玲子	ブラザー工業	
FP蓮見二三恵	日本ビクター	⑦
八重樫優子	日本ビクター	⑧
伊賀かほる	東北ムネカタ	③
村中佐千子	大洋デパート	⑤
蔵田　照美	大洋デパート	⑩
村上　朋美	東京重機	②
金村美代子	ブラザー工業	・
佐藤あや子	大崎電気	⑥
広森　和代	田村紡	⑧
藤浪　泰子	ブラザー工業	⑧
辻　敏子	田村紡	③

○内は遠征中の得点数

八重樫優子
（日本ビクター）

第4戦・白花醸造との2回戦を中心に遠征の印象をまとめてみたいと思います。

5月8日、午前9時釜山を出発し、バスに5時間以上も乗り全州には午後2時30分頃着き、早速練習をして第4戦にそなえました。

全州はソウル、釜山と回って来た中で一番の田舎で淋しい町でした。町の中をラバが馬車を引いて歩いているのは日本でも見られない事です。町の中に、ゴミが落ちていたり、お店に行っても余りきれいな所がなく、なんとなく町全体が、臭いと言った感じでした。

全州での食事は、みんな、ちょっとは慣れたらしく最初の時よりも食べられる様になりました。もうニンニクと唐がらしの臭いが私達の身体に、しみこんだ感じでした食事がたべられないからか、大部分の人は頬の肉がなくなりゲッソリしていたんです。4回試合した中で一番全州での試合が、きつかった様に思います。やはり日本の食事が一番いいなあと思い知らされました。試合は午後5時から開始され、体育館には観客が大勢来ていて、どこの体育館に行っても観戦する人が多い事にはビックリ、すごい人は屋根の鉄の所に乗って見学している人もおり、さすが韓国人ならではの応援の仕方だなあと思って見ていました。

あまり田舎町に外国のチームが来て試合をすると言う事もないから珍らしいのかも知れませんが、やはり韓国では、小学生からハンドボールを行なっているから関心度が高いのかも知れません。会長さんもお話ししていましたけれどピラミッド型と言う理想の型になっていると思います。日本でもそう言う所は、おおいに学ぶべきではないでしょうか。試合の方は白花醸造に2敗をしてしまったんですが、愚痴を言うわけではありませんが、もうすこし審判が公平だったらどうにかなっていたのになあと思います。私自身、こんないやな試合をしたのは初めてです。これを良い教訓にしていきたいと思っています。こんな、ささいな事で韓国に対する印象が悪くなったのが残念です。でも、女子では初めての韓国遠征チームとしては、みんな良くまとまっていたと思います。ハンドボール生活の良い思い出になることでしょう。

白花醸造、来日か

昨年につづいて全日本女子実業団選手権（7月・室蘭市）のゲストチームとして白花醸造の参加が予定され、全日本実連では折しょうを進めている。

オリンピックとハンドボール

待望のミュンヘンオリンピック開幕まであと87日。初参加を果たす日本ハンドボール界の代表決定も間近かだ。本誌でも今月から3回に分けてオリンピック特集を組むことにした。第1回は「オリンピックとハンドボール①」。

藤本　強

ハンドボールはオリンピック種目になっていながら、選択種目となっているので、これまで、オリンピックでは、ただ一度行なわれただけである。それは今から35年前、ヒットラー華やかなりし時のベルリンオリンピックである。1936年（昭和11年）にベルリンで行なわれ、次に予定されていた1940年の東京オリンピックでも種目にとりあげられることになっていたが、第二次大戦の戦火が拡大しつつあり、これは中止。ついで1964年の東京オリンピックでは有望種目といわれながらもオリンピックの規模を縮小するため削減されてしまった。

それが1972年のミュンヘンオリンピックに正式種目として、決定したのであるから、第一回も第二回もドイツでハンドボールがとりあげられることになった。これは11人制ハンドボールの母国とされているドイツのことであるから、当然のなりゆきともいえよう

今回のミュンヘンオリンピックの種目は7人制ハンドボールである。ハンドボールは2回目であるが、ベルリンオリンピックは11人制で行なわれているので、現在世界のハンドボールになっている7人制ハンドボールは初のオリンピックということになろう。

ベルリンオリンピックでは、参加国はドイツ、オーストリア、ハンガリー、スイス、ルーマニア、アメリカ合衆国の6チームであった。1972年にはミュンヘンにチームが集り、ミュンヘンに行くためには、世界選手権で好成績を残すか、予選を通過しなければならないのであり、こういう予選に出場する国々を入れると40ケ国に近い国々が金メダルを狙って、日々技術・戦術を磨いている。

ベルリン大会では、ドイツとオーストリアが優勝を争ったが、ドイツが断然他を圧っする力をもち優勝をしている。また、僅かにアメリカ1ケ国を加えたのみで、他はすべて中欧の国々であることを考えると、今回が大洋州を除く各大陸から、予選へまた本大会へ駒を進める国々が揃ってきたことはこの36年間に於けるハンドボールの普及と発展を物語るものであろう。

ミュンヘンオリンピックの栄冠がどこに輝くかは判らないが、ルーマニアを初めとする東欧諸国が有力とのもっぱらの評判である。現在のハンドボールのトップチームは東欧に集中していることは否めない事実で、69・70年代の第4回～第7回世界選手権者の栄冠はいずれも東欧チームの上に輝やいている。

これに巻きかえしを企てているのが、スウェーデン、デンマークを初めとする北欧諸国ならびに東・西両ドイツである。

果して、7人制の初のオリンピックの栄冠がどこの国にもたらされるか。

アフリカ、アメリカ、アジアの諸大陸の代表がどのような戦いをし、ヨーロッパ諸国の壁を崩すことができるか。

球趣はつきない。

ベルリンオリンピック

ベルリンオリンピックでは、後掲のように、6ケ国をA・Bの両組に3ケ国ずつわけ、リーグ戦を行ない、上位2ケ国ずつ4ケ国による決勝リーグ、予選3位同志による5・6位決定戦と今日のオリンピックの大会方法の原形がすでにこの時点で形作られている。

予戦リーグA組では、ドイツが持ち前の攻撃力と守備力にものをいわせ、2試合の失点僅か1点、得点51点と抜群の力を示した。この組では、良くアメリカが1点をあげたことが特筆される。2位にはハンドボール類似の競技の伝統があるハンガリーがアメリカを押え上位リーグに入ることができた。予選B組では、A組よりも力がせりあっており、この中では、オーストリアがやはり、ドイツとしばしば戦っていた実績の上にたってスイス、ルーマニアをそれぞれ3点ずつに押え、18点、14点という得点をあげて、やはり抜群の力を見せて、一位で通過した。B組2位決定戦はスイスが前半のリードを生かし、逃げきった。

今回世界最上位のルーマニアがたとえ、スイスと接戦したとはいえ、予選リーグで最下位になっているのは面白い現象である。

また、北欧諸国が全く姿を見せていないのは、種々の事情も考えられるが興味深い現象である。

5・6位決定戦は、ルーマニアが良く力を発揮し、5位にくいこんだ。

決勝リーグは、予選リーグの成績を準用せずに、決勝リーグは決勝リーグで4チーム総当り6試合が行なわれている。

ドイツチームは予選リーグほどではないにしても、やはり抜群の成績でハンガリー、スイス、オーストリアを連破し、オリンピック唯一の金メダルを獲得している。

2位にはオーストリアが、3位にはスイスがそれぞれ入り、やはり、メダリストとなっている。

この時点、北欧の参加がなかったとはいえ、圧倒的に中欧圏の強さがめだっている。

これに続いて、ハンガリー、ルーマニアと東欧圏の二ケ国が顔を見せているのは、今日の東欧圏の世界征覇の先駆をなすものとして現われているのは、きわめて興味深い事実であろう。

決勝戦のメンバーは次の通り。

【オーストリア】
GK A シュナーベル
FB F バルトル、J タウシェル
HB O リカ、E ジュラッカ、L ヴォールラブ
FM J ヴォラク、A シュマルツェル、L シュベルト、F キーフラー、A ペルヴァイン

【ドイツ】
GK H ケールヴュルス
FB W バンドホルツ、A クナウツ
HB G ダッシャー、W ブリンクマン、H カイター
FM F フロム、A クリングラー、H ベルトホルト、H タイリッヒ、E ヘルマン

以上が金・銀メダルを獲得している。銅メダルを獲得しているスイスのメンバーは次の通り。

W ギジー
E ヘルケンラス
E シュミット
R ファス
M ステウデル
W メイヤー
E フフシュミード
G ミッション
R ヴュルツ

今回はどこの国のプレーヤーが栄光あるメダリストとなるか…。

ベルリンオリンピック試合記録

▽予選リーグA組
ドイツ 22（8−0 14−0）0 ハンガリー
ハンガリー 7（2−1 5−1）2 アメリカ
ドイツ 29（12−1 17−0）1 アメリカ

▽同B組
オーストリア 18（13−2 5−1）3 ルーマニア
スイス 8（3−4 5−2）6 ルーマニア
オーストリア 14（6−1 8−2）3 スイス

▽5・6位決定戦
ルーマニア 10（6−3 4−0）3 アメリカ

▽決勝リーグ
ドイツ 19（8−3 11−3）6 ハンガリー
オーストリア 11（5−3 6−3）6 スイス
オーストリア 11（6−5 5−2）7 ハンガリー
ドイツ 16（7−3 9−3）6 スイス
スイス 10（3−3 7−2）5 ハンガリー
ドイツ 10（5−3 5−3）6 オーストリア

【順位】①ドイツ3戦全勝②オーストリア2勝1敗③スイス1勝2敗④ハンガリー3敗

ベルリン大会決勝ドイツ対オーストリア戦は8万をこす大観衆を集め、主競技場で行われた（昭和11年8月13日）

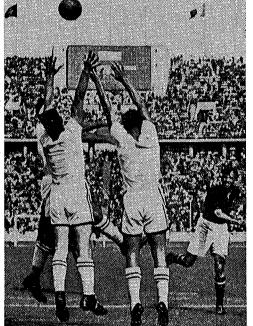
五輪公式メダルを取扱い
日本ハンドボール協会

本誌既報の日本オリンピック委員会（JOC）発行の「ミュンヘンオリンピック公式参加メダル」は5月28日から販売が開始されたが日本ハンドボール協会（東京都渋谷区神南1の1の1）でも購入の便宜をはかっており、全国関係者の利用、申しこみを呼びかけている。発行されているメダルは次の4種。

▽プラチナ 6万円▽純金 2万8千円▽純銀 3千円▽ブロンズ千六百円

候補選手、最終合宿始まる

オリンピック第2次（最終）候補選手18名の最終合宿は5月25日から名古屋・ブラザー工業体育館で始った。（29日のみ大同製鋼体育館）

代表選手決定を18日後に控えての合宿とあってさすがに緊張がみなぎっており、12のイスをめぐるはげしい〝ポジション争い〟が6月2日までつづけられた。

鹿屋（第一航空群）、海上に初の優勝飾る

第４回全日本自衛隊選手権は５月19，20，21日の３日間東京・駒沢屋内球技場（19日のみ駒沢第一球技場）に全国から28チームが参加して行われ，第一航空群鹿屋（海上，鹿児島）が決勝で連勝を狙う宿敵の陸上勝田（茨城）を破り初優勝，海上に初の栄冠をもたらした。
東京の６チームによる女子は高等看護学院が優勝。

勝田（陸上）の連勝成らず・全日本自衛隊選手権

▽男子１回戦

春日井（陸・愛知）8（2－2　6－2）4 てるずき（海・神奈川）
横須賀教育隊（海・神奈川）10（6－2　4－6）8 十条（陸・東京）
百里（航・茨城）18（8－1　10－0）1 神町６施設大隊（陸・山形）
館空ク（海・千葉）23（8－2　15－3）5 釧路（陸・北海道）
三宿ク（混・東京）8（4－2　4－3）5 古河（陸・茨城）
少年工科学校（陸・神奈川）21（10－0　11－0）0 徳島ＨＣ（海・徳島）
第２航空群（海・青森）16（7－6　9－5）11 宇都宮12特連（陸・栃木）
下志津ク（陸・千葉）15（6－4　9－7）11 熊谷第２教育隊（航・埼玉）

○……横須賀×十条がもつれた。前半まったく鋭さのなかった十条は後半開始と同時にスパート、連続５ゴールして逆転した。しかし横須賀は焦らず９分、11分平野の巧技で再び優位に立ち、その後も手固くチャンスを活かして逃げこんだ。

第２航空群×⑫特連は前半１点を争うせりあいとなり、勝負は後半10分10－10以後にかかった。押され気味だった第２航空群は相手７ＭＴをＧＫ作山が好捕してから攻撃にもハリがでて13分には14－10とはなしそのままの勢いで⑫特連をつき放した。

春日井、館空クら勝つ

▽同２回戦

春日井 10（4－4　6－4）8 富士駐とん地（陸・静岡）
横須賀教育隊 19（8－5　11－3）8 第４航空群（海・千葉）
第２教育団（陸・山口）14（8－5　6－4）9 百里
館空ク 10（3－1　7－1）2 朝霞（混・東京）
第１施設団（陸・埼玉）13（5－5　8－1）6 三宿ク
佐世保地方隊（海・長崎）18（9－6　9－2）8 少年工科学校
第２航空群 13（8－7　5－5）12 久里浜（陸・神奈川）
体育学校学生（混・東京）10（5－6　5－3）9 下志津ク

○……〃逆転劇〃の好試合が四つあった。春日井×富士は後半15分まで8－7と富士が先行していたが春日井は残り５分間に猛反撃、豊田、清水口のコンビがあっという間に３ゴールをあげてひっくり返した。

第２航空群×久里浜は２点をリードされた久里浜が後半12分逆転に成功、第２もすぐ反撃して再度先行したものの久里浜も追って12－12、延長寸前第２は関本が決勝のゴールをあげた。

体校学生×下志津は6－7と苦しんでいた体校学生が終盤たてつづけにゴールを決め辛勝。

第一施設団×三宿は前半終了間ぎわ同点に追いついた施設が後半要所で得た７ＭＴを押野が堅実に決めて優位に立ちディフェンスの健斗もあって三宿を制した。

佐世保、接戦で第一降す

▽同３回戦

横須賀教育隊 18（7－5　11－4）9 春日井
館空ク 9（3－3　6－2）5 第２教育団
佐世保地方隊 12（6－6　6－5）11 第１施設団
第２航空群 17（10－1　7－2）3 体育学校学生

○……横須賀×春日井は前半10分5－2とリードした横須賀がその優位を守りぬき、途中追われながらも余裕を見せた。春日井は後半開始直後７ＭＴなどで追いこんだが２点差まででつき放され、後半６分からは横須賀の速攻をあびた。

館空ク×２教団は後半５分5－4と逆転した館空クが終盤は完全にペースを握り押し切った。

佐世保×第１施設団は見応えがあった。４たび同点のあと佐世保は後半13分の７ＭＴを長谷が活かして余裕をとりもどし16分小山のゲットで２点差、第一の反撃を１点に食い止めて逃げこんだ。

第２航空群×体校学生は体力に

優る第2の一方的な試合となった
勝った第2はラフプレーが多く注意が欲しい。

シードチーム順当勝ち

▽同準々決勝

陸上勝田(茨城) 18 (9－4 / 9－8) 12 横須賀教育隊

○……横須賀の立ちあがりは好調で10分4－2とアヘッド。しかし勝田はじわじわと追いあげ日高が好シュートを連発するなどして14分には5－4と逆転、一気に4ゴールを加えて試合の主導権を握った。このあたり勝田の試合経験の豊富さがよく活かされていた。

【横須】		得
GK	高城	0
FP	梅森	3
	福沢	0
	藤田	2
	石橋	2
	平野	4
	安戸	1
	渋谷	0
	生方	0
	鈴木	0
	佐々木	0

【勝田】		得
GK	柳橋	0
FP	新山	1
	増田	1
	島海	2
	小松	2
	関島	3
	山田	1
	平山	1
	平池	0
	日高	7
	高岡	0

18 (3) 7MT (1) 12

後半、横須賀もすぐに2点を返し10分には9－12と反撃の気勢を示したが、勝田も要所は逃さず小刻みにポイント、20分16－9として逃げ切った。横須賀の健斗が賞される一戦だった。

第3術科学校(海・千葉) 17 (6－2 / 11－1) 3 館空ク

○……館空クは1分40秒柳田のゲットで巧くすべり出したが、地力に優る第3は5分後にはあっさり失点をとりかえしたばかりか逆に優位に立った。後半も第3はスピードのある多彩な攻撃で館空クを攻めたて15分までに連続7ゴールして勝負を決めた。

【館空】		得
GK	小森	0
FP	得丸	0
	鈴木	0
	浜畑	0
	岡村	0
	川村	0
	柳田	1
	小川	1
	紙透	1
	福田	0
	川崎	0

【第3】		得
GK	田上	0
	後藤	0
FP	大山	0
	岩之	3
	横山	4
	立野	5
	鈴木	3
	西田	0
	要田	2
	柿崎	0
	末崎	0

17 7MT (0) 3

第1航空群・鹿屋(海上・鹿児島) 16 (8－3 / 8－8) 11 第2航空群八戸

【第2】		得
GK	作山	0
	兵頭	0
FP	関本	1
	松岡	0
	那須	1
	松浦	4
	佐藤	3
	水野	2
	菅野	0
	菅野武	0
	梅野	0

【鹿屋】		得
GK	中園	0
FP	二川	0
	沢山	5
	地主	1
	中水流	3
	上之園	4
	奥原	0
	松尾	0
	小野	0
	下村	1
	中一	2

16 (0) 7MT (0) 11

○……脚力を利した鹿屋は上之園沢山、中水流の巧技でチャンスを確実に活かし攻守に一日の長を見せた。

第2航空群は後半10分5－12と差をつけられながら最後まで勝負を捨てず、特に鹿屋のプレーが個人技中心となった終盤はシャープな攻守でよく反撃した。しかし前半での失点をくつがえすまでにはいたらず善戦に留った。

いちだんとレベルアップ

◇……自衛隊のレベルというと「関東学生リーグの2部程度」が通り相場になっていた。2年前の第2回大会で特別参加の防衛大学校(関東学連2部)があっさり優勝をさらったからだ。

それから2年、自衛隊球界はチーム数も増えたし、レベルも上った。荒川日本協会理事長、田中全日本実連理事長、安藤同審判部長らは「学生界の1部Bクラス」とその株を引きあげた。

◇……準々決勝以降は特に見応えがあった。力まかせのプレーからテクニックが板について来ている優勝した海上鹿屋(第一航空群・鹿児島)や過去3回優勝の陸上勝田(茨城)が全日本実業団、国体に出て実業団、一般の有力チームなどにもまれた成果ともいえるだろう。「上位チームには2〜3人のハンドボール経験者が居るようになった」(富永全日本自衛隊連理事長)こともレベルアップにつながっている。鹿屋も奥原、中水流、GK中園の三人の経験者が軸になっていた。

高校のハンドボール選手が自衛隊へ入ってプレーしたいという傾向は全国各隊のレベルがあがるにつれ増えそうな気配である。

◇……常勝・勝田から鹿屋がようやくにして優勝杯を奪ったのも特筆される。海上勢のハンドボール熱は陸上、航空を上廻るものがあり乍らどうしても勝田を破れないでいた。陸・海の対決というとオーバーだが「勝田に勝って優勝するのは一つの目標でした」(白坂義弘・鹿屋監督)

鹿屋は今秋地元で開く鹿児島国体に出場が確定している。「ベストエイトを狙いたい」(白坂監督)そうだが、この大会でみせたスピード、テクニックが発揮されれば可能性は充分にあろう。

◇……今年の大会が成功した裏には強豪4強を準々決勝から登場させる思い切ったシード法にもあったようだ。年1回のこの大会を楽しみにして集るチームも多いだけに1・2回戦で有力チームと当てない方法が考え出された。

日本協会もはじめは「全日本選手権なのだから」と渋い顔だったが特にそれを認めた。頂点活動と底辺活動が一緒になった〝異色の大会〟ということができよう。

自衛隊ハンドボールが異色視されなくなった時──それは全日本の最上位へ躍り出る時でもある。

その日はそう遠くないハズだ。

(S)

佐世保地方隊　棄権　海上宇都宮（栃木）

勝田、鹿屋前半で主導権

▽同準決勝

陸上勝田 19（9―2、10―2）4 第3術科学校

得	【第3】		【勝田】	得
0	田上	GK	柳橋	0
0	大山	FP	高日	6
0	岩元		増田	4
1	横山		鳥海	2
1	立野		小松	1
1	鈴木		関島	2
1	西田		山田	3
0	要田		平山	0
0	柿崎		平池	0
0	末崎		高岡	1
0	後藤		新山	0

（審・勝 安藤）

19（1）7MT（0）4

○……勝田は立ちあがり立野の巧技に1点を奪われたが、すぐに持ち前のスピード攻撃を発揮、増田日高らが鮮やかなフットワークから相手ディフェンスを突き破ってシュートを決め15分には6―1。

第三は出足のよい勝田守備陣にパスワークを乱されほとんどチャンスがなく、たまに放つシュートも勝田の新人GK柳橋の好守にあって得点を返すことができなかった。後半も勝田のペースで運び三術GK田上が右ヒザを痛めたこともあり一方的な試合に終った。（安藤）

第一航空群・鹿屋 20（12―3、8―7）10 佐世保地方隊

○……予想外に大差がついた。佐世保が互角だったのは前半10分1―2まで。鹿屋は練習量充分なコンビ攻撃を活かして佐世保ゴールを襲い、前半で勝負を決めた。

得	【佐世】		【鹿屋】	得
0	丸山	GK	中園	0
0	土橋	FP	二川	0
1	佐藤		沢山	2
4	小山		地主	2
0	長野		中水流	9
0	友末		上之園	2
2	長谷		田原	1
1	山高		松尾	0
2	坂本		小野	0
0	大塚		下村	0
0	渡部		中一	4

（審・近藤 雨海）

20（0）7MT（0）10

佐世保も個人技にはみるべきものがあり最後まで鹿屋に食い下ったのは好感がもてた。ゴール前での攻めにあと一歩の研究が望まれよう。（雨海）

勝田、後半くずれる

▽同決勝

第1航空群・鹿屋 18（6―5、12―7）12 陸上勝田

得	【勝田】		【鹿屋】	得
0	柳橋	GK	中園	0
2	新山	FP	二川	0
1	増田		沢山	4
5	小松		地主	1
3	日高		中水流	4
0	鳥海		中一	4
1	関島		上之園	1
0	山田		奥原	4
0	平山		松尾	0
0	高岡		小野	0
0	平池		下村	0

（審・雨海 近藤）

18（1）7MT（3）12

○……鹿屋がついに宿願を果たした。前半こそゴール前無用の反則で7MTを課せられ自から戦況を苦しくしたが、後半は持ち前の速攻と、セットプレーでも勝田を上廻る動きをみせ、海上勢の前に立ちはだかっていた勝田の〝壁〟をみごとに切り崩した。

○……鹿屋の出足は好調で中水流の豪快なシュート力を軸に前半15分5―1と先行。しかし勝田もポストプレーで粘り、鹿屋の荒い守りから7MT3本を誘って一気に差をつめ22分には5―5とふり出しに戻した。

このあと鹿屋が残り30秒で右サイドから中一の倒れこみで1点を得たのは大きかった。

○……こういうゲームの勝負のヤマ場は後半開始直後になることが多い。同点と1点リードでは気分的にも違う。鹿屋はその優位から1分中水流のロングシュート、3分7MT、4分沢山の倒れこみ、5分上之園のロングと勝田ディフェンスをゆさぶりつづけ5点差をつけた。

これに対し勝田は動きがまったく鈍く、ほとんどチャンスらしいものをつかめぬままで立ち直れなかった。後半最初の5分間の巧拙が試合を決めたといえる。

○……〝技の勝田〟のお株を奪った鹿屋はその後もがっちり主導権を握ってはなさず快勝。

勝田は、攻撃陣は不調とも思えなかったがディフェンスに粘りがなく鹿屋のスピードに振り切られ2連勝を逸した。（杉山）

高等看護病院が優勝　―女子―

▽女子1回戦（2試合）

中央病院（東京） 7（1―0、6―1）1 婦人教育隊（東京）

▽同準決勝

三宿レディス（東京） 7（3―1、4―0）1 WAC・キューピッツ（東京）

高等看護病院（東京） 8（6―1、2―1）2 中央病院

三宿レディス 4（2―1、2―1）2 朝霞ワック（東京）

▽同決勝

高等看護病院 8（3―1、5―1）2 三宿レディス

得	【三宿】		【高等】	得
0	郷	GK	落合	0
0	相馬	FP	大塚	0
0	鈴木		渡辺	3
0	門脇		沼倉	1
0	信田		内堀	0
2	米村		所	2
0	谷口		佐藤	2
0	宮崎		吉川	0
0	石島		泉	0

（審・本田 藤原）

8（1）7MT（0）2

○……体育の授業の域を出ずいちいち審判員がルール解説しながら試合を進めていた前年（オープン参加）に比べて各チームともはるかに上達、ポストやブロックを使っての好プレーもみられるようになった。富永劭全自衛連理事長や早坂勢三同総務部長らの熱意に負うところが多いだろう。

優勝を争った高等看護病院と三宿レディスは同じ三宿に籍をおく〝同門チーム〟。

対外試合の経験もあるという高等看護病院がパスワークに一日の長を見せて終始リードを奪い押し切った。

■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

昭和47年度 全国有力70チーム新陣容紹介

オリンピックイヤーの今シーズンは日本ハンドボール界が7人制一本化に踏み切って以来ちょうど10年目である。新たな飛躍への出発点に立って全国各チームの意欲的な動向が東から西から伝わってくる。頂点にある全国有力男女70チームの新陣容をアンケートと本誌の取材によって紹介してみよう。なお、高校界は昨年度全日本高校選手権優勝校のみに留めた。（編集部）

◇男子（ABC順）

上段の7選手（KはGK、FはFP）は予想されるレギュラー・メンバー。数字は身長（cm）を示す。下段の（ ）内は出身校。◎印はオリンピック候補選手、○印はナショナルプレイヤー（ただし女子は46年度ナショナルプレイヤー）

セントラル自動車（神奈川）

K吉　賀　172
F若　崎　174
羽毛田　170
加　藤　176
吉　沢　176
布　施　176
吉　田　171

▽主な新人
布　施（日大高岡高）
吉　田（大石田高）
大　沢（前橋工高）
坂　東（高岡商高）
新　樹（熊本一工高）
渡　辺（熊本一工高）
岩　本（熊本一工高）

千葉教育員ク（千葉）

K吉　田　174
F笠　原　168
稲　生　164
松　176
八　尋　168
岩　下　172
佐　藤

▽主な新人
◎氷海（日体大）
佐　藤（日体大）
岩　下（日体大）
松　（日大）
吉　田（早大）

中京大学（愛知・東海学連）

K福　井　179
F渡　辺　167
小　川　182
梶　村　176
夏　目　181
成　田　180

▽主な新人
布　垣（中京高）
岸　見（中京高）
三　宅（中京高）

中央大学（東京・関東学連）

K山　田　176
（吉　近　172）
F◎佐々木　172
○花　輪　176
白　石　172
田　中　171
村　田　173
山　村　174

▽主な新人
大　熊（中大付高）
田　村（中大付高）
藤　本（岩国工高）
足　立（岐山高）
戸　田（佐野工高）

大同製鋼（愛知）

K柳川兄　176
F◎野　田　168
◎藤　中　179
加　藤　183
◎中　井　180
松　原　180
小　沢　175

▽主な新人
松　原（日体大）
柳川弟（熊本一工高）
宮　地（南山大）
石　川（名古屋工大）
桐　山（大垣高）

光電工業（群馬）

K須　貝　172
F永　井　170
今　井　170
野　口　171
飯　野　170

▽主な新人
野　口（富岡高）

法政大学（東京・関東学連）

K佐　藤　174
F吉　野　182
田　上　178
長谷川　178
太　田　177
井　手　170
川　島　176
（柳　179）

▽主な新人
村　田（明星高）
柴　田（浜松南高）
由　利（湯沢高）
古　関（湯沢高）
青　山（中大付高）
阿　部（湯沢高）

北陸電力福井（福井）

K大　橋　175
F小笠原　174
佐々木　170
加　藤　172
野　村　173
岡　田　175
杉　本　175

▽主な新人
吉　田（福井商高）
小　原（羽水高）

本田技研鈴鹿（三重）

K戸　田　178
F勝　田　172
○佐　藤　179
星　野　170
◎新　実　180
末　岡　172
林　173

▽主な新人
佐　藤（中央大）
新　実（芝浦工大）
林　（京都産大）
嶋　谷（岩国工高）
矢野（新居浜工高）
成　田（城東高）
市　川（室蘭高）

北海道大学（北海道・東北北海道学連）

K小田中　171
（相　河　170）
F佐々布　167
勝　尾　180
戸　島　168
中　畑　170
後　藤　172
伊　藤　170
（加　藤　172）
（矢　橋　170）
（磯　野　167）
（九　谷　180）

▽主な新人
なし

岩手教員ク（岩手）

K石　杜　172
F増　田　173
高　田　170
中　島　175
石　川　177
熊　沢　170
谷　藤　170

▽主な新人
岩　田（岩手大）
千　葉（岩手大）
田　村（仙台大）
砂子田（花巻農高）

自衛隊勝田施設学校（茨城）

K柳　林　170
F関　島　178
増　田　164
押　野　168
新　山　170
鳥　海　174
日　高　167

▽主な新人
柳　林（石岡商高）
鳥　海（少年工科高）
高　岡（小瀬高）
木　村（太子一高）
金　戸（真壁高）

関西学院大学（兵庫・関西学連）

K風　野
F岡　本　169
小　山　172
梨子木　176
宮　武　165
森
徳　吉

▽主な新人
森　（下関西高）
酒　井（金蘭千里高）
望　月（西宮東高）
徳　吉（西宮東高）

関西大学（大阪・関西学連）

K神　崎　177
F横　井　170
伊　奈　170
吉　田　171
内　田　172
塚　本　175
平　元　176

▽主な新人
川　本（夕陽丘高）
藤　田（寝屋川高）

海上自衛隊鹿屋（鹿児島）

K	中　園	173
F	沢　山	162
	地　主	166
	奥　原	170
	上之園	183
	中　一	170
	中水流	173

▽主な新人
上之園（東海二高）
中　一（鯵ヶ沢高）
町　田（岡山東商高）
山　下（隼人工高）
内　村（財部高）

京都産業大学（京都・関西学連）

K	奥　谷	175
F	垣　内	179
	戸　田	178
	福　井	183
	大　原	176
	西　沢	172
	嶋　野	173

▽主な新人
日　比（不破高）
天　本（口加高）
岩　原（口加高）
岡　本（児島高）
富　田（不破高）

熊本商科大学（熊本・九州学連）

K	宮　本	175
F	丸　野	175
	田　上	171
	森　近	170
	永　田	168
	中の森	168
	吉　村	174

▽主な新人
平　島（マリスト高）
重　永（宮崎商）

熊本トヨタ自動車（熊本）

K	平　川	167
F	秦	176
	毛　利	175
	坂　田	177
	竹　下	176
	鶴　島	163
	平　岡	175

▽主な新人
平　岡（熊本一工高）

神戸製鋼（兵庫）

K	宮　永	180
F	古　川	172
	吉　田	178
	佐　藤	168
	角　谷	175
	水　野	172
	前　田	172

▽主な新人
安　川（武庫工高）
笹　野（武庫工高）
田　路（兵庫工高）
赤　嶺（御影工高）
若　本（初芝高）

松山商科大学（愛媛・中四国学連）

K	佐　竹	176
F	大　山	176
	赤　松	172
	筒　井	176
	上　野	170
	山　口	170
	池　田	180

▽主な新人
河　野（新居浜東高）
井上泰（松山南高）
井上隆（野村高）
小　林（飾磨高）
大　塚（松山南高）
八　山（松山南高）
栗　林（宇和島南高）

丸善石油下津（和歌山）

K	海　端	176
F	堤　本	177
	刀　称	177
	松　本	178
	辻　井	173
	松　川	172
	三　木	168

▽主な新人
中　崎（岩国工高）

三菱レイヨン大竹（広島）

K	藤　本	170
F	田　中	170
	兼　森	178
	松　本	170
◎	大　江	169
	池　田	162
	沖　重	170

▽主な新人
大　江（芝浦工大）
善　本（岩国工高）
山　川（岩国工高）
岩　本（岩国工高）
岡　村（岩国工高）

三井石油化学岩国（山口）

K	杉　弘	178
F	中　股	178
	笹　西	178
	粟　尾	160
	作　花	167
	大　村	175
	森　重	170

▽主な新人
大　村（岩国工高）
森　重（岩国工高）

名城大学（愛知・東海学連）

K	高　橋	170
F	飼　沼	173
	福　田	171
	川　口	176
	松　井	173
	佐　藤	173
	田　中	177

▽主な新人
山　本（三本松高）
杉　山（一宮工高）
岩　田（名城付高）
荒　駒（三本松高）

名城クラブ（愛知）

K	新　海	168
F	西　脇	171
	千　葉	173
	高　橋	169
	高　木	171
	早　川	174
	向　井	169

▽主な新人
竹　内（名城大）
高　田（名城付高）

明治大学（東京・関東学連）

K	有　吉	173
F	佐　藤	172
	安　倍	176
	相　本	170
	村　重	169
	山　岡	178
	山　根	169
	（指　宿	174）

▽主な新人
山　根（明星高）
橋　本（府中高）
石　井（富士高）
藤　田（三本木高）

日本発条（神奈川）

K	清　水	180
F	北　村	173
	小野口	170
	福　田	170
	伊　沢	176
	石　塚	174
	高　野	180

▽主な新人
高　松（下松工高）
丸　茂（塩山商高）
鈴木信（沼津工高）
鈴木敏（沼津工高）
広　末（中芝高）
熊　坂（武相高）
金　川（釧路工高）

日本鋼管福山（広島）

K	一　色	180
F	西　田	176
	渡　辺	178
	相　島	175
	辺　見	180
	浜　田	170
	林	170

▽主な新人
篠　田（大分東高）
挾　間（大分東高）
西　郷（大分東高）
加　藤（新居浜工高）

日本合成ゴム（三重）

K	後　藤	180
F	位　田	165
	鈴　木	177
	松　永	177
	山　村	181
	杉　谷	172
	萩　原	162

▽主な新人
なし

日本体育大学（東京・関東学連）

K	守　屋	168
F	○松岡	180
	○浅原	165
	藤　田	168
	小　林	164
	高　野	179
	喜　井	178

▽主な新人
菅　野（湯沢高）
斉藤幸（大曲高）
坂　本（岩国工高）
大　房（日大高岡高）
庄　司（小杉高）
岸　本（兵庫工高）
北　居（堺工高）

日新製鋼呉（広島）

K	三　田	180
	（中　野	172）
F	正　岡	173
	沖　谷	171
	下　茂	177
	吹　上	171
	松　木	171
	村　川	178
	（吉　田	177）
	（中　川	168）
	（湯　中	168）

▽主な新人
なし

大阪イーグルス（大阪）

K	◎本田	179
	（広　川	177）
F	高　橋	168
	池　本	175
	安　達	172
	足　羽	175
	市　田	168
	河原崎	173
	（樫　塚	170）
	（福　井	173）

▽主な新人
高　橋（日体大）
池　本（日体大）

大阪経済大学（大阪・関西学連）

K	山　田	176
F	牛　屋	173
	渡　辺	175
	奥　川	170
	津　川	180
	穂　積	181
	福　井	170

▽主な新人
太　田（鈴蘭台高）
石　井（県神戸商高）
林（嵯峨野高）
塩　川（三田学園高）
北　川（堺工高）

大阪体育大学（大阪・関西学連）

K	宍　倉	170
F	中　田	171
	阪　本	170
	桐　山	171
	中　村	176
	白　柳	176
	福　永	176

▽主な新人
藤　井（枚方高）
根　本（麻生高）
山　口（堺工高）
池　本（和泉工高）
矢　辺（武庫工高）
小　口（博多工高）
池　田（三原工高）

西南学院大学（福岡・九州学連）

K簗　地　171
F林　田　166
木　本　176
武　田　172
牧　170
津　田　168
長　崎　164

▽主な新人
簗　地（西南高）
栗　須（香椎高）
花　山（小倉西高）
江　頭（今万里高）
花　村（香椎高）

立教大学（東京・関東学連）

K伊　藤　180
F片　山　170
菅　間　174
鈴　木　170
籾　山　170
松　山　176
寺　岡　173
（安　井　171）

▽主な新人
阿　部（仙台二高）
川　合（大垣北高）
牧（一宮高）
後　藤（下関西高）

琉球大学（沖縄・九州学連）

K屋嘉比　172
F玉　城　171
上　原　165
高　山　167
赤　嶺　168
大　城　163
新　垣　164

▽主な新人
国　場（糸満高）
田　崎
屋　良（那覇高）
新　垣（糸満高）
上　地（前原高）
金　城（糸満高）
玉　城（糸満高）

大山商会（大阪）

K川　原　181
F佐　藤　168
奥　川　175
土　田　174
前　島　178
伸　藤　178
橋　本　168

▽主な新人
入　江（関西大）
橋　本（大阪経大）
水　谷（竜谷大）
川　村（北淀高）
山　下（住吉中）

大崎電気工業（埼玉）

K◎下里　185
F◎近森　183
◎東　180
○荒井　178
◎飯田　187
佐　藤　176
林　185

▽主な新人
荒　井（法政大）
前　洲（兵庫工）
坂　口（水俣工）

武田薬品光（山口）

K清　水　168
F長　棟　165
仁　科　166
末　長　175
和　田　178
三　宮　163
吉　田　175

▽主な新人
なし

スワロー兵庫（兵庫）

K上　野　172
F北　山　176
畑　177
井　上　175
木　野　176
黒　田　171
中　村　171

▽主な新人
松　野（日体大）

住友化学菊本（愛媛）

K藤　田　181
F伊　藤　165
原　169
白　石　170
曽我部　172
加　藤　177
千　載　181

▽主な新人
城賀本（新居浜工高）

三景（東京）

K西　牧　176
F喜　田　176
武　井　174
植　田　174
○高梨　172
内　藤　170
上　平　173

▽主な新人
なし

芝浦工業大学（東京関東学連）

K吉　田　177
F黒　田　171
斉　田　177
新井田　175
柳　原　185
柳　沢　169
押　切　172

▽主な新人
斉　田（川崎市工高）
新井田（函館有斗高）
柳　原（新居浜工高）
柳　沢（足利工高）
押　切（湯沢高）
安　中（都島工高）

トヨタ車体（愛知）

K遠　山　175
F宮　松　172
松　本　170
山　田　165
山　口　175
安　井　172
幸　170
（村　田　170）

▽主な新人
宮　松（関大）
高　橋（柏崎工高）
高　田（名城大付高）
牧（吉良中）

東京教育大学（東京・関東学連）

K溝　上　173
F中　村　174
横　島　172
新　美　174
土　井　170
嶋　田　170
松　尾　126
（村　松　165）

▽主な新人
嶋　田（富山高）
籔　野（名北高）
島　田（桐蔭高）
下　村（西尾高）
加　藤（西尾高）

東北大学（宮城・東北北海道学連）

K三　好
F荒　木
山　形
小　松
石　垣
千　葉

▽主な新人
松　岡（岐阜北高）
安　藤（岐阜北高）

東北学院大学（宮城・東北北海道学連）

K菊地政　172
F大　場　170
門　間　170
若生忠　173
小　田　178
山　本　170
高　橋　170
（早　坂　175）

▽主な新人
若生一（仙台商高）
山　中（仙台高）
菊地雅（仙台商高）

富山大学（富山・北信越学連）

K藤　森　170
F渡　辺　175
宮　下　175
開保津　165
日比野　165
黒　田　178
前　田　170

▽主な新人
岩　田（大垣北高）
沢　田（砺波高）
泰　間（桃山学院高）
岩　瀬（新城高）

同志社大学（京都・関西学連）

K高　橋　176
F牧　野　174
横　川　176
中　村　168
入　江　169
吉　田　174
上　田　180
（早　瀬　172）

▽主な新人
高　橋（桜台高）
大　庭（佐世保北高）
松　井（小杉高）
松　原（加納高）
広　田（下関西高）

早稲田大学（東京・関東学連）

K山田章　174
F加　藤　180
伊　谷　165
渡　辺　173
菊　池　186
脇　若　180
川　畑　171

▽主な新人
山　高（佐世保北高）
明　石（佐世保北高）
山田克（府中高）
岡　本（桜台高）
伏　見（岐山高）

和歌山教員（和歌山）

K堤　176
F塩　崎　174
鈴　木　168
串　野　170
市　瀬　178
田　中　170
吉　田　174

▽主な新人
なし

ワクナガ薬品（大阪）

K今　井　178
F市　原　183
◎木野　180
◎早川　180
森　170
高　橋　166
戸　田　170
（藤　井　175）

▽主な新人
山　原（呉商高）
関　本（呉商高）
高　田（松本商高）

湯沢高校（秋田）

K小　松　179
F半　田　179
佐　藤　168
藤　原　167
古　関　167
菊　子　166
麻　生　185

▽主な新人
由　利（湯沢南中）
沓　沢（古四王中）
加　藤（須川中）
高　山（湯沢南中）
新　川（須川中）

◇女子 （ＡＢＣ順）

オール涌谷（宮城）

K品川 160
F今野 154
村上 156
門田 160
安田 151
遠藤 160
庄子 156

▽主な新人
高橋
富田
木村
佐々木
平沢
いずれも涌谷高

プラザー工業（愛知）

K佐藤 168
F金村 159
藤浪 161
長塚 161
森本 162
鳥居 162
平 160

▽主な新人
井戸田（高蔵女商高）
熊谷（青森西高）
宮崎（西尾高）
前田（豊橋高）

中京大学（愛知・東海学連）

K横井 160
F宮田 167
田島 160
松本 160
浜下 160
佐竹 159
藤原 168

▽主な新人
松坂（勝山高）
畝本（勝間田農林高）
重本（北桑田高）
浦崎（石川高）
石川（石川高）
前畑（吉城高）

福岡教育大学（福岡）

K桑岡 156
F柴田 150
船越 155
山本 158
鍋島 150
古賀 157
広田 164

▽主な新人
谷川（小倉西高）
広田（臼杵高）
光保（若松高）
末永（小倉西高）

日本ビクター（茨城）

K渡辺 161
F蓮見二 167
八重樫 163
蓮見彰 162
大塚 158
富山 165
谷沢 164

▽主な新人
笹沼（水海道二高）

日本体育大学（東京・関東学連）

K大工原 162
F木村 159
嶋田 154
赤塚 155
小貫 157
福田 158
岩本 157

▽主な新人
木元（国学院栃木高）
黒島（池田高）
林（生田高）
寺尾（吉原高）
藤山（佐世保高）

寝屋川クラブ（大阪）

K名取 162
F魚住 163
坂倉 161
岩本 160
北川 160
谷垣 156
津熊 155

▽主な新人
山口
古高
赤木
いずれも寝屋川高

大阪体育大学（大阪・関西学連）

K加藤 164
F花谷 161
堀川 175
周防 162
山本 165
増田 166
高木 157

▽主な新人
梅谷（古賀高）
堀川（粉河高）
金森（京都女高）
奥野（初芝高）
高市（松山商高）
栗山（泉北高）
日置（守口高）

大谷クラブ（大阪）

K吉川 157
F中村 153
辻江 165
吉元 158
二村 153
岡西 156
浅田 157

▽主な新人
なし

大阪スターズ（大阪）

K小林 159
F古川 164
山崎 153
細川 158
吉田 163
林 161
長田 162

▽主な新人
長田（鶴見商高）
河本（清友高）

扇屋（千葉）

K鶴岡 155
F戸村 152
伊藤 157
塩谷 156
山倉久 159

▽主な新人
山村（真備学園高）
相川（群女付高）
村上（夙川学院高）
木村（佐原女高）
石積（江戸川高）
桜井（佐原女高）
宮武（夙川学院高）
山倉幸（佐原女高）

山陽女子高校（広島）

K三紙 163
F町田 162
灘 156
村岡 159
中元 163
河田 166
甲斐 155

▽主な新人
横山（庚午中）
河本（翠町中）
景山（宇品中）
下岡（玖波中）
新原（岐陽中）

田村紡績（三重）

K久保 161
○三毛 163
沖 160
広森 165
金田 158
辻 154
久保田 156

▽主な新人
坂本（豊岡女高）
笠（中部中）
東（大淀中）

大洋デパート（熊本）

K○小原 163
F○垂水 163
○米 162
○島田 165
蔵田 164
劔 155
篠田 164

▽主な新人
林（清文高）
平下（牛深高）

東北ムネカタ（福島）

K続橋 162
F伊賀 155
後藤 160
小泉 161
渡部 154
遠藤 152
有賀 165

▽主な新人
有賀（福島石川高）
本泉（本宮高）
中村（古川女高）
清水（二瀬中）

東京重機工業（東京）

K長岡 160
F○滝口 156
○牧野 162
○古佐原 154
村上 163
市川 159
葛西 164

▽主な新人
岡部（日本女子工高）
折口（山陽女高）
菊地（和洋女高）

東京教育大学（東京・関東学連）

K松井 164
F岡田 155
畑中 158
橋本 160
松本 156
東 157
多賀 162

▽主な新人
白鳥（静岡城北高）
秋山（今治西高）
平戸（水海道二高）
菅井（旭川高）

東京女子体育大学（東京・関東学連）

K増田 161
F西田 154
石井 163
本告 165
橘 157
高橋 158
赤岸 153
（屋良 150）
（石塚 150）

▽主な新人
橘（花巻北高）
寺田（花巻北高）
高橋（黒沢尻南高）
赤岸（山口中央高）
中根（愛知淑徳高）

徳山高校ＯＧ（山口）

K石津 161
F吉村
山本
川口
深見
白井
石丸

▽主な新人
川口
深見
茅原
いずれも徳山高

美和クラブ（東京）

K山田 158
F早川 158
山崎 154
栗林 155
荒川 155
木幡 154
杉山 161

▽主な新人
なし

◆締切り後到着分

男・氷見クラブ（富山）

K中山 174
F森田 176
中村 170
高橋 173
浦野 170
沢武 163
森 173

▽主な新人
浦野（明治大）

編集部でこの企画のために全国98チームにアンケートをお願いしましたが、返送されてきたのは、今回掲載のチームだけでした。
この全国有力70チームの新陣容の企画は今号をもって打ち切りとします。
（編集部）

春季学生リーグ戦記録（上）

東北学院、春季で5年ぶり

東北・北海道

▽第6回東北北海道学生春季選手権▽4月28日～30日▽室蘭市体育館▽参加10校

5校づつの予選リーグではA組がもつれた。強力とみられた仙台大が福島大に敗れ、福島大が優位に立ったのだが北大に足元をすくわれ、結局仙台大、北大、福島大が3者1敗で並び得失点差の争いから仙台大が勝ちあがった。

B組は東北学院が秀れた攻撃力で他を寄せつけず快勝。

東北学院×仙台大の宮城同士の決勝は、東北学院は巧く主導権を握り、ディフェンスの健斗もあって仙台大を制した。東北学院の優勝は第1回（昭42）以来5年ぶり2度目、秋との通算では10度目である。

▽予選リーグA組

福島大 22—6 室蘭工大
仙台大 15—9 北　大
室蘭工大 14—13 宮城教大
福島大 10—5 仙台大
北　大 19—9 宮城教大
仙台大 20—8 室蘭工大
北　大 15—11 福島大
仙台大 22—8 宮城教大
北　大 25—8 室蘭工大
福島大 14—8 宮城教大

【順位】①仙台大3勝1敗（得失点差27）②北大3勝1敗(25)③福島大3勝1敗(23)④室蘭工大1勝3敗⑤宮城教大4敗

▽同B組

東北学院 21—7 小樽商大
東北大 30—9 釧路教大
東北学院 22—10 岩手大
東北大 25—10 小樽商大
岩手大 18—15 釧路教大
東北学院 14—7 東北大
釧路教大 12—10 小樽商大
東北大 16—10 岩手大
岩手大 31—6 小樽商大
東北学院 29—3 釧路教大

【順位】①東北学院4戦全勝②東北大3勝1敗③岩手大2勝2敗④釧路教大1勝3敗⑤小樽商大4敗

▽3位決定戦

東北大 17—3 北　大

▽決勝戦

東北学院 11—6 仙台大

中大の連続優勝成る

関　東

▽4月27日～5月12日▽駒沢屋内球技場（3・4部は駒沢第一球技場）▽1部8校、2部8校、3部8校、4部14校

1部は中、日、法、早4校がけたちがいの実力を示して前半を終り、優勝争いはかつてない混戦を予想させながら終盤3日にかけられた。

第5日まず中央が早稲田を辛くも振り切ったあと、日体も法政を後半圧倒してリードを奪った。

第6日法政がすばらしい斗志で中央を攻め井手、長谷川らの活躍から後半24分13—9と優位に立ちそのまま押し勝つかにみえた。しかし中央は法政の無雑作なシュートから反撃のチャンスをつかみ、驚異的な粘りで追いあげタイムアップ25秒前白石のゲットで引き分けに持ちこんだ。日体は早稲田の単調な攻撃をおさえこみ、優勝は最終日の中央×日体戦にかかった

連続優勝に自信をもつ中央はめずらしくスタートからとばし佐々木、花輪の両ナショナルプレイヤーの巧技を織りこんで前半13分6—0と先制した。日体は得意の走りがみられず、主導権を奪われた焦りも手伝って後半8分6—10としたのが精いっぱい、まったく勝機をつかめぬまま敗れ、関東学生の王座奪還は成らなかった。

中央の優勝は昨秋につづき2度目。下位グループは伝統校が部員不足に悩まされて苦しい試合ぶりだったが東京教大が芝浦工大以下をおさえた。立教の最下位は昨春以来のこと。

2部は日大、防衛大が6勝1敗で優勝決定戦を行い日大が勝ち1

中大と日体大(女)が出場

NHK杯学連代表

第19回NHK杯の学連代表を決めるセレクションマッチは、5月29日名古屋・ブラザー工業体育館に男子3学連、女子2学連の代表が集って行われ男子は中央、女子は日体大の関東勢がそれぞれ代表に決まった。他の学連は出場を辞退していた。

男子は第1試合、大体大が調子の出ぬ中央を攻めたてていちぢは4点のリードを奪ったが、中央は後半、個人技で盛り返し辛勝した。

決定戦は男女とも関東両校が圧倒勝ち、東海は地元の利を活かせなかった。

◇男子1回戦（1試合）

中　央（関東） 16（7—8、9—5）13 大阪体大（関西）

◇同代表決定戦

中　央 23（12—10、11—5）15 東海学生選抜

◇女子代表決定戦

日　体（関東） 21（12—3、9—1）4 東海学生選抜

位となった（4度目）。

3部は関東学院が危気ない攻守で3度目の優勝、4部は東京経大・神奈川大の新加盟で14校が2組に分かれてリーグ戦、各組1位となった東京工大×成蹊大の優勝戦は東京工大が僅差で勝ち初優勝した。

得点王は1部が長谷川裕（法政・浜松南高出、38点）、2部が上野覚（国士館・聖光学院出、42点）3部が黛悦郎（千葉商大・富岡高出、36点）、4部が篠塚玲治（茨城大、佐原高出、39点）と決まった。上野は昨春につづき2度目の表彰である。

なお、秋季リーグから男子は史上初の5部制採用に踏み切ることになり、現在の予定では4、5部各7校の予定だが4部8、5部6に変更されるかもしれない。

▽1部

中央 21（9－6、12－4）10 明治
日体 32（16－4、16－3）7 芝浦工大

関東学生春季（1部男子）

	中	体	法	早	教	芝	明	立	勝	分	負
①中央	…	○	△	○	○	○	○	○	6	1	0
②日体	●	…	○	○	○	○	○	○	6	0	1
③法政	△	●	…	○	○	○	○	○	5	1	1
④早大	●	●	●	…	○	○	○	○	4	0	3
⑤教大	●	●	●	●	…	○	○	○	3	0	4
⑥芝浦	●	●	●	●	●	…	○	○	2	0	5
⑦明治	●	●	●	●	●	●	…	○	1	0	6
⑧立教	●	●	●	●	●	●	●	…	0	0	7

【2部順位】①日大6勝1敗②防衛大6勝1敗③東京学芸大5勝2敗④国士館3勝4敗 ⑤明星・慶応2勝4敗1分 ⑦千葉工大1勝6敗⑧一橋1勝6敗

法政 22（8－5、14－7）12 東京教大
早稲田 18（10－3、8－3）6 立教
早稲田 21（14－4、7－2）6 東京教大
法政 23（13－3、10－3）6 立教
中央 18（8－5、10－5）10 芝浦工大
日体 19（8－7、11－3）10 明治
日体 19（12－4、7－1）5 立教
法政 19（7－8、12－4）12 明治
中央 20（11－9、9－0）9 東京教大
早稲田 23（12－4、11－3）7 芝浦工大
早稲田 26（11－6、15－2）8 明治
法政 32（15－4、17－4）8 芝浦工大
東京教大 11（7－5、4－4）9 芝浦工大

4強、無キズで激突

【芝浦】得
- GK：吉田 0
- FP：黒田 1、斉田 1、新井田 1、安中 0、柳原 4、柳沢 2、押切 0、鈴木 0

得【東教】
- GK：0 溝上
- FP：2 中村、5 横島、0 新実、1 上井、0 嶋田、3 松尾、0 藪野、0 村松

11（0）7MT（1）9

中央 17（10－8、7－7）15 早稲田
日体 21（13－6、8－6）12 法政

明治 14（9－2、5－4）6 立教

【立教】得
- GK：伊藤 0、小暮 0
- FP：片山 0、菅野 2、鈴木 1、安井 2、松山 1、寺岡 0、荒木 0、新井 0、阿部 0、後藤 0

得【明治】
- GK：0 有吉
- FP：3 安倍、4 佐藤、2 相本、1 村重、0 指宿、4 山岡、0 山根、0 石井

14（2）7MT（1）6

東京教大 13（5－4、8－7）11 明治
芝浦工大 14（8－6、6－5）11 立教
中央 13（8－8、5－5）13 法政　引き分け

【法政】得
- GK：佐藤 0
- FP：吉野 3、田上 1、長谷川裕 4、太田 1、井手 4、柳 0、長谷川富 0、橋本 0、川島 0、村田 0

得【中央】
- GK：0 山田、0 吉近
- FP：2 佐々木、2 花輪、3 白石、1 田中、5 村田、0 会田、0 山村、0 今関、0 松本、0 上村

13（0）　（1）13

芝浦工大 11（6－6、5－4）10 明治
法政 14（7－6、7－7）13 早稲田
日体 19（10－5、9－6）11 早稲田

【早大】得
- GK：石橋 0、山田 0
- FP：加藤 3、川畑 3、浦山 0、脇若 1、菊地 4、伊谷 0、渡辺 0、小松原 0、田中 0、山高 0

得【日体】
- GK：0 奥川、0 守屋
- FP：4 浅原、4 小林、2 喜井、1 藤田、1 古沢、4 松岡、1 河先、1 細江、0 永井、1 高野

19（2）　（3）11

中央 15（6－7、9－3）10 日体

【日大】得
- GK：守屋 0、奥川 0
- FP：松岡 2、浅原 1、藤田 1、古沢 2、小林 1、喜井 3、河先 0、細江 0、高野 0、永井 0

得【中央】
- GK：0 吉近、0 山田
- FP：4 佐々木、2 白石、4 花輪、2 山村、2 今関、0 塩田、1 田中、0 上村、0 松本、0 村田

（審・綿貫、池田）

15（0）7MT（0）10

優勝決定戦で日大勝つ

▽2部

国士館 20－16 千葉工大
日大 18－11 一橋
東京学芸大 19－9 慶応
防衛 12－9 明星
国士館 20－11 一橋
日大 22－15 千葉工大
慶応 11（分）11 明星
東京学芸大 12－10 防衛
日大 16－9 慶応
明星 18－12 千葉工大
防衛 20－15 国士館
東京学芸大 19－15 千葉工大
一橋 9－8 明星
慶応 16－11 国士館
防衛 13－12 日大
東京学芸大 14－7 一橋
千葉工大 16－12 慶応
東京学芸大 19－13 国士館
日大 14－7 明星
防衛 23－8 一橋
国士館 19－11 明星
慶応 13－6 一橋
日大 14－9 東京学芸大

防衛大23－3千葉工大
防衛大20－11慶応
一橋18（分）18千葉工大
明星大17－2東京学芸大
日大20－13国士舘
▽7・8位決定戦
千葉工大12－10一橋
▽1・2位決定戦
日大11（5－2, 6－7）9防衛大

得	【日大】		【防衛】	得
0	上野	GK	湯浅	0
		GK	古田	0
0	松金	FP	山本	2
2	古沢	FP	石本	0
2	西川	FP	坂井	2
2	上坂	FP	板垣	2
0	水越	FP	壁	3
2	大隅	FP	幾田	0
3	金子	FP	宇野	0
0	潮田	FP	師岡	0
0	寺沢	FP	橋本	0
0	井上	FP		
11	（0）	7MT	（0）	9

（審・滝口、一宮）

3部関東学院、4部は東工大

▽3部
独協15－13順天堂
東海39－9千葉商大
関東学院22－16東大
武蔵工大15－10都立大
順天堂16－8都立大
関東学院21－10東海
武蔵工大23－17独協
千葉商大14－8東大
関東学院15－12武蔵工大
都立大10－7東大
順天堂13－7千葉商大
独協15－12東海
東海15－8都立大
独協16－12東大
武蔵工大14－5千葉商大
関東学院13－8順天堂
東海13（分）13東大
関東学院21－8千葉商大
都立大20－10独協
武蔵工大18－14順天堂
順天堂21－16東大
武蔵工大19－11東海
関東学院25－10独協
都立大16－4千葉商大
独協12－10千葉商大
武蔵工大14－11東大
関東学院20－5都立大
順天堂14－11東海
【順位】①関東学院7戦全勝②武蔵工大6勝1敗③順天堂4勝3敗（得失点差11）④独協4勝3敗（マイナス20）⑤都立大3勝4敗⑥東海2勝4敗1分⑦千葉商科大1勝6敗⑧東大6敗1分

▽4部Aブロック（7校）
成蹊23－14明治学院
茨城大21－10神奈川大
東京理科大39－29横浜商大
横浜商大22－6神奈川大
茨城大28－12明治学院
成蹊25－5山梨大
成蹊16－13横浜商大
山梨大12－8明治学院
成蹊20－11東京理科大
茨城大19－9横浜商大
山梨大18（分）18神奈川大
東京理科大10－6明治学院
横浜商大不戦勝山梨大
成蹊14－8神奈川大
明治学院13－10神奈川大
山梨大14－9東京理科大
成蹊18－10茨城大
横浜商大17－13明治学院
神奈川大20－14東京理科大
茨城大14－6東京理科大
茨城大26－5山梨大
【順位】①成蹊6戦全勝②茨城大5勝1敗③横浜商科大3勝3敗＝以上3校は秋季4部に残留④山梨大⑤東京理科大⑥神奈川大（新加盟）⑦明治学院▽個人得点1位　篠塚玲治（茨城大）39

▽同Bブロック（7校）
千葉大17－12東京経大
東京工大21－14上智
青山学院12－3専修
東京農工大14－13専修
上智15－7東京経大
東京工大17－8青山学院
青山学院13－10東京農工大
東京工大7－4千葉大
専修9－8東京経大
千葉大11－9青山学院
東京農工大14－9東京経大
専修18－11上智
専修9－8東京工大
千葉大12－7東京農工大
青山学院12－11上智
東京工大18－10東京経大
千葉大19－18上智
東京工大10－9東京農工大
青山学院15－12東京経大
専修17－8千葉大
上智8－4東京農工大
【順位】①東京工大5勝1敗②専修4勝2敗③千葉大4勝2敗④青山学院3勝3敗＝以上4校は秋季4部に残留⑤上智⑥東京農工大⑦東京経済大（新加盟）▽個人得点1位　斉藤和彦（上智）33
▽同1・2位決定戦
東京工大8（4－3, 4－4）7成蹊

関東女子・日体大の連覇を決めた一戦（対東京教大）

（注）3位以下の最終順位はつけず。

立教もちこたえる

◇各部入れ替え戦（5月19日・駒沢屋内球技場）

▽1～2部

立　教 11（4－6　7－4）10 日　大
（1部）　　　　　　　　（2部）

※立教1部残留

▽2～3部

関東学院 16（8－6　8－6）12 一　橋
（3部）　　　　　　　　　（2部）

※関東学院2部昇格

▽3～4部

東京工大 11－7 東　大
（4部）　　　　（3部）

※東京工大3部昇格

関東（女子）

日体、無敵の22連覇（26度目）

◇4月29日～5月12日◇駒沢屋内球技場◇5校

予想どおり日体と東京教大が強かった。

最終戦で顔を合わせた両校は激しいファイトをぶつけ好試合を演じたがチャンスを確実に活かした日体がつねに先手をとり、なんとかペースをとりもどそうとする東京教大をつきはなし後半18分10－6と開いて勝利をきめた。

これで日体は36年秋復活以来22シーズン連続優勝、中断前を加えると26度目の優勝である。また36年秋以来このリーグで無敗（83戦）。

得点王は19ゴールをあげた岡田初枝選手（東京教大・白鴎高出）に決まった。

日　体 22（13－0　9－1）1 日女体大

東京教大 8（4－2　4－3）5 東女体大

東京教大 10（5－1　5－3）4 東京学芸大

東京教大 14（9－0　5－0）0 日女体大

日　体 27（11－2　16－0）2 東京学芸大

日　体 15（9－0　6－2）2 東女体大

球趣高めた4強の激突（関東学生）

○……4強不敗のまま迎えた後半3日間の1部上位戦はさすがに見応えがあり息をぬけぬ攻防戦がつづいた。

なかでも優勝のかけられた最終戦中央×日体（5月12日・駒沢屋内球技場）は一般ファンや両校学生、閉会式を待つ各校選手などで三千人収容の観客席は八分どおり埋まり、かつてない熱狂のうちに試合が進められた。

○……このところ学生界への風当りは強い。名門校の不振、盛りあがりのない運営……。なによりも選手の質低下が招いた精彩のなさはリーグ戦の魅力をうすれさせた。「なんとかしなくては」と思うOBも、母校の不甲斐なさにその足を遠のかせた。

このどうにもならない低迷を突き破り、再び活気を甦えらせたのは昨秋の「中央初優勝」だった、と記者は思う。

○……日体の6連覇を阻み初の王座を掌中におさめた中央の躍進は常勝に甘えていた日体を奮起させ選手の素質では中央に優るとも劣らぬといわれる法政、早稲田に新たな斗志を燃えたたせる役目を果たしたのである。

「日本を代表する選手が実業団に固まっているのは知っています。でも実力伯仲の学生リーグこそハンドボールの醍醐味ですよ」（駒沢に住む笠山忠志さんの話）

○……中央はすっかり自信をつけたようだ。昨秋は1点あげれば騒ぎ、1点失えば選手がかけよってはげましていたのだが、今季はいきなり6－0としたせいもありベンチも選手も終始冷静にみえた。残り8分で日体の採った密着マーク（アサインド・マンツウマン）に佐々木、花輪、白石は自陣に釘ずけされたが、かえって山村、村田、今関らが伸び々々動きまわりダメ押し点をあげた。佐々木など腕を組みマークされるにまかせるという図太いほどの落ち着きようだった。

○……昨秋のアジア予選・日韓戦をしのぐ歓声、怒号のなかで進められた優勝戦は中央の快勝で終ったが、これではっきり中央は〝追われる立場〟になったと思う。

西敏郎会長から中央各選手へ次々に手渡される優勝杯をみながら日体の、法政の、早稲田の各選手がキラリキラリと光っていた。

関東学生リーグはようやく往時の活況をとりもどすきっかけをつかんだようである。（S）

【写真は多くの観衆が見守るなかで行われた中央×日体戦（5月13日・駒沢）】

東女体大 10（5－0、5－3）3 日女体大
日女体大 8（3－2、5－3）5 東京学芸大
日体 10（5－4、5－4）8 東京教大

【東教】		得	【日体大】		得
GK	松井	0	GK	大工原	0
FP	岡田	3	FP	嶋田	1
	畑中	4		赤塚	4
	橋本	0		小貫	2
	松本	1		木村	1
	東	0		福田	0
	名賀	0		岩本	1
	秋山	0		坂本	1
	白鳥	0		小林	0
				鈴井	0
				松本	0

10（0）7MT（0）8
（審・斉藤 綿貫）

【順位】①日体4戦全勝②東京教育大3勝1敗③東京女子体大2勝2敗④日女体大1勝3敗⑤東京学芸大4敗

関西は大阪体大が宿願の初優勝遂ぐ

関西学生春季リーグ戦は5月2日から25日まで西京極体育館などで行われ、注目の男子1部は最終戦で全勝同士の大阪体大と同志社が優勝をかけて対戦、大阪体大が前半の3点差を活かして主導権を握り快勝、初優勝した。

女子は甲子園短大が3連勝を狙う大阪体大に逆転勝ち、3シーズンぶり4度目の優勝を飾った。【詳報次号】

◇男子1部順位①大阪体大②同志社③大阪経大④京都産大⑤関大⑥関学 ◇女子順位①甲子園短大②大阪体大③大阪教大④大阪薬科大⑤武庫川女大

中京が男女優勝飾る

東海

◇4月29日～5月14日◇名古屋大球技場ほか◇1部6校、2部9校

1部は例年同よう中京、名城の優勝争いとなり、第4日に顔を合せた両校は互いに持ち味を活かしての攻め合いとなった。

名城は飼沼の活躍で18分5－4と逆転したが、中京はあわてず19分渡辺で同点、21分成田で逆転に成功、その後はがっちりと優位を守った。名城は後半いちど2点差まで追いあげたのだが、守備にもう一つ固さを欠き、すぐに中京の加点を許したのが響いた。

結局、中京は最終日も名大を危気なく降して5戦全勝、4シーズン連続、通算23度目の優勝を果した。

2部は旧3部3校と合流して試合方式を改め、参加9校を3組に分けての予選リーグのあと、各組同位者によりリーグ戦で順位を決めた。その結果、中部工大が名工大に逆転勝ちした貴重な1勝で4度目の優勝を決めた。

▽1部
愛知教大 13（6－4、7－3）7 南山
名城 36（17－1、19－3）4 名大
中京 19（6－3、13－3）6 岐阜大
名城 22（11－9、11－3）12 岐阜大
南山 21（9－8、12－5）13 名大
中京 27（14－2、13－5）7 愛知教大
中京 30（18－0、12－5）5 南山
岐阜大 21（10－3、11－7）10 名大
名城 25（13－4、12－8）12 愛知教大
愛知教大 32（13－10、19－6）16 名大
岐阜大 17（8－5、9－6）11 南山
中京 21（10－6、11－8）14 名城

【名城】		得	【中京】		得
GK	高橋	0	GK	福井	0
	荒駒	0		生盛	0
FP	飼沼	5	FP	渡辺	2
	福田	0		松本	0
	松井	2		小川	3
	佐藤	3		梶村	4
	田中	3		夏目	4
	山本	1		成田	2
	川口	0		妻鹿	0
	石塚	0		布垣	5
	長塚	0		岸見	1
	江崎	0		三宅	0

21（0）7MT（4）14
（審・松井 石川）

中京 30（15－2、15－1）3 名大
岐阜大 11（3－2、8－3）5 愛知教大
名城 23（11－8、13－6）14 南山

【順位】①中京5戦全勝②名城4勝1敗③岐阜大3勝2敗④愛知教大2勝3敗⑤南山1勝4敗⑥名古屋大5敗

▽2部予選リーグAブロック
中部工大 11－10 愛知大
愛知大 16－10 名古屋学院
中部工大 18－9 名古屋学院

▽同Bブロック
名古屋工大 11－8 愛知工大
愛知工大 19－18 滋賀大
名古屋工大 12－10 滋賀大

▽同Cブロック
三重大 不戦勝 静岡大
岐阜歯大 不戦勝 静岡大
三重大 38－3 岐阜歯大

▽同7～9位決定リーグ
名古屋学院 20－10 滋賀大
（注）静岡大は棄権

▽同4～6位決定リーグ
愛知大 19－15 愛知工大
（注）岐阜歯科大は棄権

▽同1～3位決定リーグ
中部工大 19－15 三重大
名古屋工大 11－9 三重大
中部工大 11－9 名古屋工大

【最終順位】①中部工大②名古屋工大③三重大④愛知大⑤愛知工大⑥名古屋学院⑦滋賀大
（注）順位決定リーグを棄権した岐阜歯科大(6位に相当)、静岡大(9位)は最終順位からはずされた

名大が残留 ▼東海学生1・2部入れ替え戦（5月21日・名城大）
名大（1部）17（6－6、11－6）12 中部工大（2部）

中京女、3連覇成らず

東海（女子）

◇4月29日～5月14日◇中京大学グランドほか◇3校

岐阜大が棄権したため3校が2回戦総当りを行った

3連勝を狙う中京女大は諸戦で中京に一方的なスコアをとられ、愛知教大戦も勝ち点こそあげたが苦戦した。中京は各試合とも安定の攻守を見せ3シーズンぶり（通算11度目）に首位の座へ戻った。中京の男女優勝は3シーズンぶり9度目

中京 11（6－2、5－0）2 愛知教大
中京 14（7－2、7－2）4 中京女大
中京女 9（5－4、4－2）6 愛知教大
中京女 6（1－2、5－2）4 愛知教大
中京 15（7－3、8－6）9 中京女
中京 11（7－1、4－1）2 愛知教大

【順位】①中京勝ち点2（4勝）②中京女大1（2勝2敗）③愛知教大0（4敗）

名門・関学2部に転落

【速報】関西学生春季入れ替え戦は5月28日大阪で行われ、男子1・2部でこれまで49シーズン中25回の優勝を誇る関学が京大に35－11で敗れ、2部に転落した。

驚異的な成長示す

〜沖縄ハンドボール界〜

今後は「九州地区」で活動

沖縄県が日本に復帰した。これまではスポーツ界でも〝特別区〟扱いであった同県だが、今後は他の46都道府県とまったく同じ立ち場になる。沖縄のハンドボール界はその歴史が浅いにもかかわらず、本土勢に優るとも劣らぬ活動をつづけ、実力も高い。「日琉親善」といわれていた時代を顧みながら、今後の同県球界のいっそうの発展を期待したい。（編集部）

昭和40年に普及の種まき

沖縄にハンドボールの種まきが行われたのは昭和40年1月阪神大学選抜野球団の副団長として遠征した馬場太郎氏（当時日本協会副会長、現大阪協会顧問）が同地の文教局や高体連関係者に普及を呼びかけ、協会の設置を要望した時が最初である。

沖縄側に受け入れの態勢ありとみた日本協会は同年3月、改めて馬場氏を団長に徳山高（山口）男女、熊本市商(男)、熊本市高(女)による「日本高校選手団」を送りこみ模範試合を公開した。この時行った男子・熊本市商×琉球大、女子・徳山×琉球大の2試合は記念すべき沖縄と〝本土〟との最初の交流試合である。

このあとの沖縄球界の成長は驚異的で4月には沖縄高体連ハンドボール部が設立（初代委員長金城茂氏）され6月に第1回沖縄高校選手権を開き8月の第16回全日本高校選手権（熊本）には早くも男子・興南高が初参加、堂々3回戦まで駒を進め多くの讃辞を浴びた。以後男子は43年を除いて毎年、女子も41年から代表が送られている。日本ハンドボール界の発展同よう、沖縄球界も高校界が主力となって根を伸ばし、高校指導者が協会の主力役員となっていることは注目されよう。

国体など各種大会でも活躍

日本協会との間も急速にせばめられ41年1月には村山寛氏（当時高体連ハンドボール部副部長、現岡山協会長）を団長とする全日本高校男女選抜軍が遠征、男女とも地元チームと4試合を行い、その後もコーチの派遣などが積極的に進められ、沖縄のレベルアップを手助けした。

また42年4月からは日本協会規約に同県を組みこみ、日本協会理事として平仲孝栄氏が選任され現在に至っているのも特筆してよい。

沖縄側の意欲はシーズン毎に盛りあがり全日本高校のほか42年の第22回国体(浦和市)に小禄高(女)が、45年8月の第13回全日本教職員（四日市）に沖縄教員が初出場44年11月の第19回、45年11月の第20回九州学生で琉球大が2年連続準優勝したのはなかでも光る成績といえよう。

各部門に好チーム

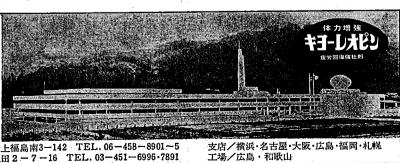
44年頃から本土側の遠征チームも増えるようになりその都度歓待をうけている。

手近かな〝外国〟旅行でもあったし、温暖の気候も本土チームを喜ばせたが、何よりも好チームの多いことで遠征の目的が達せられるようになったのが「沖縄行」を盛んにさせた、といえる。

毎月のように行われるビッグトーナメントを目標に高校、教員、一般各部門とも好チームが輩出、これほど短時間に全般的なレベルを引きあげた地域は例をみないのではなかろうか。

本土から離れ、しかも特別な環境におかれていたことがかえって関係者の奮起につながり、旺盛な研究心に実ったのだと思う。

インター・ハイでも沖縄代表は例え小さなことでも身につけて帰ろうという姿勢がうかがわれたし本土各代表とは比べものにならぬほど〝郷土意識〟が高かった。

「僕達が学んだことを沖縄に帰ってすぐ各チームへ伝えます」彼らはつねにそういっていたものだ。

日本協会では今年度は「特別区扱い」だが、来シーズンからは「九州ブロックの一協会として活動してもらう」（荒川理事長の話）。日本協会規約や単独国際交流規程の関係字句は早ければ今秋の全国評議員会で改訂されよう。

―日本チーム沖縄遠征成績―
―（日本協会へ報告分のみ）―

◇40年3月・徳山高（山口）男女熊本市商(男)、熊本市高(女)遠征
◇41年1月・全日本高校男女選抜軍遠征、男女とも4戦4勝
◇44年12月・中部工業大(愛知)遠征　3勝1敗
◇45年7月・名城大（愛知）遠征　3戦全勝
◇45年9月・大同製鋼（愛知）遠征　7戦全勝
◇45年12月・スワロー兵庫遠征　3戦全勝
◇45年12月・東海学生男女選抜軍遠征　男子4戦全勝、女子3戦全勝。

読者投書欄　明日への提言

関東学連、日程編成に一考を

関東学生春のリーグ戦前半3日間は久しぶりに休日、祭日に駒沢で行われ、勤めをもつ私も観戦の機会を得たのだが、なんとも理解できなかったのは、せっかくの好い時間に2部のカードをぶつけていたことだ。

ゴールデン・ウィークの午後1時～5時台といえばなんとはなしにスポーツ観戦に誘われたり、駒沢を散策したりしたい人が多いと察するのだが、主催者はこの4時間にリーグの看板である1部をわざわざはずし、ハンドボールのスリルに乏しい2部の低調なゲームを見せているのである。

ウィークディは、夜に1部をもっていくのは肯けるが休日までそのようにするテはない。

ふらりと会場へ来た一般の人もこれでは2度と足を運ばないのではあるまいか。

機械的にカード編成するような姿勢は来シーズンから是非改めて欲しい。【田無市・西本明雄・会社員】

有力実業団は国体辞退を

機関誌でも再三いわれているように、このところクラブの活動が低滞しているようだ。

一つには登録料の高額も影響しているが、見逃せないのはクラブチームに全国大会への道がまったく閉ざされている点だ。

全日本総合はその性格からいって一流チームの激突であっても仕方はないが、せめて国民体育大会だけでもクラブに解放できぬものであろうか。

実業団のなかには一般クラブ的な同好会もあるそうで、いちがいに実業団――クラブと一線を引けそうにもないが、幸にも全日本実業団は上位グループと下位グループに分けられている。上位グループと下位グループのベストフォアまたはベストエイトには国体出場を辞退してもらえないか。女子の場合は企業チームはいかなる理由でも国体出場させない方向に規定できぬだろうか。

底辺の拡充々々といってもそう簡単によい方法を見出せるとは思えぬ。手近かなところに底辺に励みを与える〝対策〟はころがっているのである。【静岡・桑野裕一・27才】

理解に苦しむ学連の態度

NHK杯の学連代表決定戦の男子は今年の場合東海、関西、関東学連の代表校によって一つの座を争うわけだが、全日本学連はいかなる理由か総当り戦をさけ三校によるまったく不均衡なトーナメントシステムを採用した。

真の強者を選ぶにはリーグ戦がもっともふさわしいという考えが近年浸透し、全日本総合も決勝ランドは昨年からリーグ制を採用している。学連の今回の方針は時代に逆行するものと思う。3年前の韓国遠征代表校決定戦では日体、中京、関大によるリーグで運営しているのだ。時間的にも余裕があり乍らそうした前例さえも破ったことは理解に苦しむ。3校という数字はリーグ以外に考えられぬものである。また、このような機会に各学連間の交流も果たされるわけであり一試合でも多く〝対外〟経験を積みたいとする選手の意志さえも無視している。

さらに不愉快なのは、この問題に対しある学連役員は「キミのところは強いのだからどのような方法でも構わぬではないか」と答えたことだ。私と同じ疑問を東海、関西両学連の関係者が質したらナンと答えるつもりだったのだろうか【東京・佐々木健一・中大主将】

日本ハンドボール界への建設的な意見をどしどしお寄せ下さい。字数は500字以内。用紙自由。匿名を認めますが原稿の末尾には必ず住所・氏名年令または職業をお書き下さい。

7MTで勝敗を決定
刈谷市連（愛知）が初めて採用

正規の試合時間を終って両チーム同点―ふつうなら引き分けか延長戦だが、7MTを射ち合ってその成功数で勝負を決める方法が日本の国内試合で初めて試みられた

4月23日愛知・刈谷市体育館で行われた第13回刈谷市長杯刈谷市総合体育大会ハンドボール競技の女子準決勝と同決勝がそれ。

この大会の主管者刈谷市ハンドボール連盟は前から「7MT結着」に関心を寄せており3月の刈谷市選手権でも採用をうたっていた。その時は該当するゲームがなく、今回は運よく(?)それも女子優勝を決めるゲームにぶつかったのだから選手はもとより役員、関係者もちょっとした興奮ぶりだった。

史上初の7MT結着試合となった準決勝の刈谷北高×豊田工機戦は5―5で終了のあと、7MTを射ち合い、

(先)刈谷北高×××○××　1
豊田工機×○○×○欠　3

となり、合計8―6で豊田工機が勝利を握った。3時間後に行われた決勝の豊田工機×刈谷北高OG戦も4―4で試合終了、現役のカタキとばかり刈谷北高OGがまず挑んだが一本も決まらず、後攻めの豊田工機が経験にモノを言わせるかのように第1シューターがあっさりゴールを決めて勝利を確定づけた。

(先)刈北OG××××××　0
豊田工機○××××欠　1

一球ごとにベンチ、コートサイドから喜びの声や、嘆声が流れ、予想以上にスリリングなシーンがつづいてムードを盛りあげた。

7MT結着を最初に採りあげたのは本誌の知るかぎりでは46年4月チェコで行われた第4回世界学生選手権で、その後6月にユーゴ女子国際でも試みられている。

昨秋来日した国際ハンドボール連盟（IHF）のE・ホルル技術委員長は「IHFでは成文化する意思はない」と語っていたが、東欧諸国ではかなり〝流行〟しはじめているようだ。日本協会はIHFが動かない以上興味を示すことはなさそうだが、ローカルルールとして採用するのは「別に問題はないだろう」(安藤審判部長の話)との見解である。

刈谷市ハンドボール連盟の7MTによる勝敗決定規則

本連盟の主催する大会のうち大会要領にその旨明示された場合にかぎり規定時間内に勝敗の決しない試合の結着を7MTによってつける。一、サイド…前半スローオフを行ったチームの先攻により、そのチームの攻撃サイドに固定して行う。

二、メンバー…後半終了時にコート内に居た各6名のFPにより行う。

三、7MT…日本協会競技規則による。

四、判定…次の二段階とする。

〔第一ラウンド〕1、先攻チーム6名のFPにて7MT

2、後攻チーム6名のFPにて7MT

3、各6名の7MT終了時の成功数（得点）の多少によって判定、

〔第二ラウンド〕第一ラウンド終了後、なお勝敗の決定しない場合は先攻、後攻が1回づつ交互に7MTを結着のつくまで行う。この場合、同一のFPは6順后でなければ再び7MTで行うことはできない。

（編集部・注）第4回世界学生で採用されたルール（主要点）は「トスで決めた一方のゴールを使い両チーム6選手が1回づつ交互に行う。最初の6投で同スコアの場合は1人づつ結着のつくままつづける」

呉三津田（男子）山口中央（女子）が勝つ
岩国工、山陽女子敗れる波乱

第23回中国高校

◇5月7、8日◇岡山市岡山工高グランドほか◇参加男子16校、女子14校

男女とも全国最上位のレベルを誇る強豪により好内容の激戦がつづき、今季初のブロック高校選手権を飾った。

男子は前年国体優勝の岩国工（山口）が準々決勝で呉三津田（広島）の粘りにあい、3点差の優位をキープできず逆転負け、勢いにのった呉三津田は準決勝、決勝でも強敵を連破してみごとに初優勝を遂げた。

広島代表の優勝は第11回大会の盈進商以来12年ぶり3度目、7人制では初。山口代表の連勝は成らなかった。

女子も抜群とみられた全日本チャンピャン山陽女（広島）が決勝で伏兵・山口中央に後半押しまくられて3連勝を逃した。雨天のため狭小な体育館が使われたため山陽女は速攻が活きなかった。山口中央は初の栄冠、準決勝で同県の常勝徳山を破った自信もモノをいった。健斗を賞したい。山口代表の優勝は8年ぶり6度目。

▽男子1回戦

岩国工（山口） 15（7―5、8―7）12 倉敷商（岡山）
呉工（広島） 21（10―1、11―4）5 松江工（島根）
修道（広島） 19（8―6、11―5）11 倉敷工（岡山）
浜田水産（島根） 32（19―7、13―6）13 倉吉工（鳥取）
広（広島） 23（10―3、13―5）8 津山商（岡山）
早鞆（山口） 22（10―4、12―10）14 飯南（島根）
岩国（山口） 25（16―3、9―2）5 境港工（鳥取）
呉三津田（広島） 14（7―6、5―6、…、1―1、1―0）13 天城（岡山）

▽同準々決勝

呉工 13（6―6、7―5）11 岩国工
修道 22（12―3、10―5）8 浜田水産
早鞆 14（4―7、6―7）10 広
呉三津田 14（5―8、9―4）12 岩国

▽同準決勝

修道 10（6―4、2―4、…、1―2、1―0）10 呉工
抽せんで修道高の勝ち
呉三津田 10（3―3、7―5）8 早鞆

▽同決勝

呉三津田 17（10−5、7−11）16 修道

▽女子1回戦

高水（山口）10（4−1、6−2）3 真備（岡山）

呉商（広島）8（4−1、4−6）7 浜田商（島根）

津山商（岡山）4（2−1、2−2）3 宇部女（山口）

山口中央（山口）23（8−2、15−0）2 金川（岡山）

松江農林（島根）10（5−1、5−5）6 進徳女（広島）

広島一女商（広島）24（12−1、12−4）5 松江家政（島根）

▽同準々決勝

山陽女（広島）13（5−2、8−2）4 高水

津山商 8（2−3、6−4）7 呉商

山口中央 12（8−0、4−1）1 松江農林

徳山（山口）11（5−4、4−5、1−1、1−0）10 広島第一女商

▽同準決勝

山陽女 10（5−1、5−1）2 津山商

山口中央 6（4−2、2−3）5 徳山

▽同決勝

山口中央 11（5−5、6−3）8 山陽女

各地の記録

教員B、丸善石油降す

▼和歌山県春季総合選手権（4月・和歌山）

▽男子準々決勝

和歌山教員B 38−14 粉河高

和商ク 22−7 桐蔭OB

桐蔭高 13−11 和歌山大

丸善石油 14−6 御坊商工高

▽同準決勝

和歌山教員B 10−6 和商ク

丸善石油 20−1 桐蔭高

▽同決勝

和歌山教員B 21（14−4、7−13）17 丸善石油

▽女子1回戦（3試合）

県和歌山商高 11−4 笠田高

御坊商工高 19−3 粉河高B

粉河高 8−3 和商OG

▽同準決勝

粉河高 12−1 御坊商工高

県和歌山商高 不戦勝 粉河OG

▽同決勝

粉河高 13（7−0、6−0）0 県立和歌山商高

日本発条2連勝飾る

▼神奈川県春季大会（5月・横浜公園）

▽一般男子準々決勝

日進商会 19−8 日吉ク

日本発条 23−13 蒔田ク

セントラル自動車 不戦勝 神奈川教員団

三春台ク 13−8 セントラル自動車B

▽同準決勝

セントラル自動車 24−11 日進商会

日本発条 18−15 三春台ク

▽同決勝

日本発条 12（7−6、5−3）9 セントラル自動車

日本発条は2連勝

岡山教員、逆転勝ち

▼岡山県一般男子優勝大会（4月天城高）

▽準々決勝

岡山教員 28−14 津山高専

川崎製鉄 21−12 天城ク

児島柏会 22−14 岡山大

全倉敷 30−3 九州耐火

▽同準決勝

岡山教員 26−20 川崎製鉄

全倉敷 19−12 児島柏会

▽同決勝

岡山教員 17（6−8、11−6）14 全倉敷

大阪イーグルスが快勝

▼第26回大阪府民体育祭ハンドボール競技（5月・天王寺高ほか）

▽一般男子準々決勝

大阪イーグルス 18−11 雪陵ク

大山商会 27−8 桃蔭ク

ラックス 25−13 富田林ク

佐野工ク 13−12 待兼ク

▽同準決勝

大阪イーグルス 11−10 大山商会

佐野工ク 15−10 ラックス

▽同決勝

大阪イーグルス 24（10−6、14−5）11 佐野工ク

▽一般女子1回戦（2試合）

大阪スターズ 8−1 豊陵ク

大阪薬大 不戦勝 大淀ク

▽同準決勝

寝屋川ク 15−3 大阪薬大

大谷ク 8−5 大阪スターズ

▽同準決勝

大谷ク 16（10−2、6−3）5 寝屋川ク

高校男子は四日市工勝つ

▼三重県春季大会（5月・四日市）

▽一般男子準々決勝

明野航空学校 26−11 四日市商ク

本田技研 11−6 三重大

本田技研B 43−15 三菱油化

鵜の森ク 26−15 高田ク

▽同準決勝

本田技研 29−11 明野航空学校

本田技研B 38−12 鵜の森ク

▽決勝は行わず。

▽高校男子準々決勝

四日市工 23−1 津

四日市 15−11 四日市商

海星 27−13 高田

津工 20−12 亀山

▽同準決勝

四日市工 32−0 四日市

津工 25−11 海星

▽同決勝

四日市工 18（7−0、11−2）2 津工

▽同女子準々決勝

津女 15−0 上野商

四日市 20−1 菰野

暁 14−1 亀山

四日市商 13−3 津

▽同準決勝

津女 10−2 四日市

暁 13−1 四日市商

▽同決勝

津女 9（6−1、3−1）2 暁

男子で中大附属強し

▼東京都高校春季大会（5月・国立高）

▽男子準々決勝

早大学院 11−6 神代

中大附 20−5 深沢

国立 9−5 両国

小岩 13−8 秋川

▽同準決勝

中大附 11−6 早大学院

国立 11−6 小岩

▽同決勝

中大附 17−6 国立

▽女子準々決勝

府中 8−6 小平

神代 4−2 深沢

五商 8−5 二商

桜水商 4−0 三商

▽同準決勝

府中 8−7 神代

桜水商 6−2 五商

▽同決勝

桜水商 11−5 府中

▼鳥取県一般男子トーナメント（5月・米子市）

▽1回戦（2試合）

倉吉フェニックス 23−9 米子高専

米子ク　25－22　自衛隊米子

▽同準決勝

米子ク　23－11　鳥取三洋

境港市役所　27－8　フェニックス

▽同決勝

境港市役所　18（10－3、8－3）6　米子ク

男子はトヨタ車体大勝

▼第13回刈谷市（愛知）総合体育大会ハンドボール競技（4月・刈谷市体育館）

▽男子1回戦（2試合）

昭和ク　18－9　刈谷高

刈谷ク　17－10　刈谷工高

▽同準決勝

昭和ク　12－7　豊田工機

トヨタ車体　20－9　刈谷ク

▽同決勝

トヨタ車体　25（13－3、12－2）5　昭和ク

▽女子準決勝（＝1回戦）

豊田工機　8－6（3－1）　刈谷北高

（）内は7MTによるスコア

刈谷北OG　10－4　刈谷北高B

▽同決勝

豊田工機　5（2－2、2－2、7MT 1－0）4　刈谷北OG

（注）7MT決着については30頁に関連記事

一般男子は那覇商OB

▼第3回沖縄選抜大会（4月・豊見城高）

▽一般男子1回戦（2試合）

興南イーグルス　23－16　琉球大

琉球大OB　31－15　沖縄大

▽同準決勝

琉球大OB　19－18　中頭

那覇商OB　18－16　興南イーグルス

▽同決勝

那覇商OB　24（14－10、10－8）18　琉球大OB

那覇商OBは初優勝

▽同女子決勝

中頭　14（10－5、4－3）8　知念高OG

中頭は2年ぶり2度目の優勝

▽高校男子準決勝

知念　14－6　コザ

那覇　11－5　豊見城

▽同決勝

知念　12（6－3、6－2）5　那覇

知念高は初優勝

▽同女子準決勝

小禄　12－4　真和志

首里　10－8　興南

▽同決勝

小禄　14（4－6、10－3）9　首里

小禄高は3連勝

▼第24回愛知県実業団リーグ＝第4回林杯争奪戦（4月・名古屋市体育館）

▽1部

大同製鋼　23－12　トヨタ自工

日本硝子　23－20　トヨタ自工

新日鉄名古屋　17－13　トヨタ自工

大同製鋼　26－10　三友工業

三友工業　21－15　日本硝子

大同製鋼　27－11　日本硝子

新日鉄名古屋　22－12　日本硝子

三友工業　13－8　新日鉄名古屋

トヨタ車体　28－13　トヨタ自工

トヨタ車体　22－11　新日鉄名古屋

大同製鋼　20－4　新日鉄名古屋

三友工業　20－10　トヨタ自工

三友工業　14（分）14　トヨタ車体

トヨタ車体　41－11　日本硝子

大同製鋼　32－22　トヨタ車体

【順位】①大同製鋼5戦全勝②トヨタ車体・三友工業3勝1分1敗④新日鉄名古屋2勝3敗⑤日本硝子1勝4敗⑥トヨタ自工5敗

【2部順位】①タヨシ産業4勝1分1敗（得失点差39）②ブラザー工業4勝1分1敗（37）③三菱自動車4勝2敗④パイロットインキ⑤豊田工機⑥トヨタ学園⑦中部電力

▽1・2部入れ替え戦

トヨタ自工（1部）　18－17　タヨシ産業（2部）

▼第27回岡山県高校優勝大会（4月・岡山）

▽男子準々決勝

天城　7－4　児島

倉敷商　12－11　矢掛

倉敷工　20－3　落合

津山商　24－2　玉野

▽同準決勝

天城　6－4　倉敷商

津山商　17－8　倉敷工

▽同決勝

天城　14（4－2、10－3）5　津山商

▽女子1回戦

真備　9－8　金川

▽同決勝

津山商　5（4－0、1－4）4　真備

「熊本大合宿」に参加して・中根武彦

昨年5月の協会機関誌（86号）で「260人のジャンボ合宿」の欄を読んで内容のある充実した合宿だと感じた。

私はその時から次の機会には是が非でも参加したいと決心したものである。部員たちには県の新人大会に優勝したならば熊本遠征に参加しようと約束し、希望と励みをもたせて日頃の練習に頑張った。

本県では来年度インター・ハイ昭和50年度には国民体育大会とスポーツの二大祭典を目前に控えて競技力向上に努力しなければならない時なのである。

その意味でも田村紡績チームとの合同練習や試合をできる限り経験したものの出発前には部員・監督とも不安感が強くなるばかり。

とにかく熊本へ行って一試合でも多く経験し当って砕けろの気持ちだった。

今回初参加し体得したことは、

一、日本最強の大洋デパートから技術を学べたこと。

一、毎日チームカラーの異った相手と対戦し効果のあるゲーム（実戦）を経験したこと。

一、1日4〜5試合という強化日程であるが選手達はいろいろのコンディションでゲームができその上根性を自分の身体で学びとれたこと。

一、県内における1年間の試合数よりも多くのゲームを僅か6日間で消化し、日頃の試合不足を解消できたこと。

一、数多くの試合経験で選手全員が出場できるため控えの戦力が厚くなったこと。

などであるが、とにかく毎日試合々でいちどグランドに出たならば他のことを忘れてハンドボールに熱中し、練習試合だという気にならず勝負を意識し自分の身体を通して根性を身につけたことと信じている次第です。現在の部員・監督の心境はこの意義ある「熊本合宿」に参加できてよかった、是非来年度も参加したいとの一言につきる。（三重県立津女子高監督）

＜注＞「熊本高校女子大合宿」の詳報は本誌前号既報

編集後記

ここのところ記事満載、投稿も多くなり、種々の投稿で長いものはあとまわしにせざるを得ない状況です、どうぞ御了承を（F）

日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第九十八号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十七年五月二十五日印刷 昭和四十七年六月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会 東京都渋谷区神南一ー一ー一 電話・東京(467)三二一一 振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価二百円(年間購読料千八百円)